平成３０年３月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

３月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）広島放送局において８人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。次いで、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、４月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　安井　　弥　（広島大学大学院医歯薬保健学研究院院長）
副委員長　上大岡トメ　（イラストレーター）
委　　員　伊藤　康丈　（イワミノチカラ　代表）
坂本トヨ子　（株式会社サカモト　代表取締役）
佐田尾信作　（中国新聞社　論説主幹）
中村　寿男　（有限会社中村茶舗　代表取締役）
納所裕美子　（アート・プロジェクト株式会社　代表取締役）
松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）

（主な発言）

＜「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について＞

○　平成３０年度の山口放送局の取り組みについて、「山口に暮らす若者たちが前向きに未来を切り開いていこうという気持ちを「Ｍｙ“ＩＳＨＩＮ”」と名付け、若者たちの“いま”に迫ります」とある。現在、中学校や高等学校におけるキャリア教育では、進路指導だけではなくどういった人間になりたいかといったいわゆる“ペルソナ”について考える場がある。このキャンペーンや番組情報などを、教育委員会と連携して共有できれば、人格形成の面でも有意義なものになるのではないか。

（ＮＨＫ側）

アドバイスをいただいた教育委員会との連携については、今後検討していきたい。

○　平成３０年度の松江放送局の主な取り組みとして「江戸時代後期に茶人として活躍した松江藩主・松平不昧の没後 200 年の節目の年となる。関連番組・イベントで地域の盛り上がりを伝える」と説明しているが、地元でも全国から家元が集まるなどさまざまな企画を検討しているので、うまく連携して進めてほしい。

○　岡山放送局の午後６時台「もぎたて！」については、新年度から番組のキャスターを望月啓太アナウンサーが担当し、セットも新しくなるようなので期待したい。山口放送局の「Ｍｙ“ＩＳＨＩＮ”」の関連番組や松江放送局の「長寿王国さんいん 百寿者のヒミツ」も楽しみにしている。

○　広島放送局のドラマ「夕凪の街 桜の国 2018」について、もう少し詳しく伺いたい。

（ＮＨＫ側）

ことし広島放送局は開局９０年を迎えるが、それを記念して制作するドラマで、広島市出身のこうの史代さんが描いた「夕凪の街 桜の国」という漫画を原作にしている。ストーリーは大きく二つに分かれており、「夕凪の街」という昭和３０年の広島市を描いた部分と、「桜の国」という現代を舞台にした部分がある。原作は１４年前に発表された作品なので、今回は「桜の国」のパートを平成３０年現在に置き換え、オリジナルストーリーを加えてドラマ化する。撮影は３月下旬から始まるが、出演者や放送日時などの詳細については改めて伝えたい。

○　「夕凪の街 桜の国」はすでに映画化されているが、映画とテレビドラマで違いはあるか。

（ＮＨＫ側）

映画は原作の漫画を忠実に再現しているが、今回制作するドラマについては「桜の国」のパートで社会的状況が変わったことを加味し、原作のモチーフを大事にしつつ独自の脚本で制作している。原作では昭和１６年の時点では主人公が２８歳だったが、平成３０年となる現在では、

４０代になったという設定で物語が展開する。ぜひご覧いただきたい。

○　新番組の「さんいんスペシャル」について、「島根県のみならず、山陰地方としてつながりが強い鳥取県と共通の課題や魅力を、鳥取放送局とも連携して両県に向けて放送。互いの県への高い関心に応える」とあるが、現在も午後６時台「しまねっとＮＥＷＳ６１０」では島根県外のニュースを放送している。新年度はさらに鳥取県の話題など山陰地方の話題を伝えるという説明があったが、せっかく制作した番組をさらに多くの人々に見てもらうために、新聞のテレビ欄をうまく活用するなどして、効果的な番組のＰＲに努めてほしい。

○　鳥取放送局の取り組みの中で、「視聴者が投稿した動画でプロモーションビデオを制作する」とあるが、詳しく伺いたい。

（ＮＨＫ側）

今年度は若い世代にＮＨＫに親しみを持ってもらうために、プロモーションビデオを制作し、それとリンクしたポスターや街頭広告やホームページなどを展開したが、来年度はさらに幅広い世代に身近に感じてもらえるように、４０代から５０代までの人にも投稿してもらえるような動画を募集する。この世代はネットに親しんでいる人も多いので、そういった人にも投稿してもらえる動画を募集して１分程度のミニ番組にして放送するとともに、ＳＮＳやＮＨＫのサイトなどにも掲載する。

＜放送番組一般について＞

○　「３月２日(金)ふるさとの逆襲「女子会本音トーク！女性が輝けば 街も元気に」(総合 後 7：30～8：43 中国ブロック)を見た。クワバタオハラさんが出演したことで、にぎやかで率直なトークが交わされて、タイトルのとおり女子会のようだった。女性が起業するうえで参考になる話や、主婦や高齢者が聞きたいことなどが盛り込まれてよい番組だった。司会を務める谷原章介さんは、インタビューで出た「もったいない」という言葉をキーワードにして番組をうまくまとめていた。

（ＮＨＫ側）

谷原章介さんは、これまでこの番組で司会を２回務めてもらったこともあり、女性たちのトークをうまく取りしきっていただいいた。事前に

取材を進める中で、中国地方の女性が立ち上げた企業は、地域おこしを目的にしていなくても、結果的に地域をよくすることにつながっている事例がいくつもあった。女性は身近な課題や困っていることを解決したり、近しい人に笑顔になってもらいたいと発想したりすることが得意だという話も伺った。さらに、山口県の女性企業家に特化して資金や経営のノウハウを支援する官民共同の取り組みなど、全国から注目されている各地の事例も紹介した。今回は中国地方で活躍する元気な５人の女性にスタジオに集まってもらって生放送をした。こうした地域の課題や成功事例については、引き続き紹介していきたい。

○　私もこの番組を見た。主な産業が第一次産業の地域では、男性が主体となる事業形態が多くなりがちだが、この番組では女性が楽しみながら起業していることがよく伝わった。女性はビジネスを拡大していくより、小さくても自分たちが満足できるような仕組みを作って、女性に特有の感覚を大事にして起業しているという点に着目して番組を進めていたのがよかった。さらに、ほかの地域のビジネス・モデルも紹介できれば、雇用促進の参考になるのではないか。次回も期待している。

（ＮＨＫ側）

女性は、気の置けない仲間と和気あいあいとしながら物事を進めていくのが得意だという専門家の指摘もあって、地域をよくするという目的で協力して取り組んでいる事例を紹介した。ほかの地域の事例については、今後検討していきたい。

（ＮＨＫ側）

この番組で紹介した内容は中国地方だけではなく、ほかの地域でも活用することができるアイデアで、全国各地でも参考になる部分も多いのではないか。

○　１月２６日(金)フェイス「再生医療・研究開発最前線～広大発ベンチャーの挑戦」を見た。研究の中では宇宙空間で筋肉の状態を観察する場面があったが、宇宙科学と医療が深く関係していることがよく分かった。

（ＮＨＫ側）

広島大学では、学問の垣根を越えた研究が盛んだと聞いている。最先端の研究の取り組みについては、今後も注目していきたい。

○　２月１８日(日)「荒海ゴールドラッシュ 完全版」(総合 前７：45～8：14 鳥取県域)を見た。カニ漁を営む山口有史さんの人柄やカリスマ性がよく現れていたとともに、カニ漁という男性社会のおきてが分かる番組だった。この番組については音声に注意して見たが、雄大な海の波やロープを引くすさまじい音など臨場感があって、ナレーションがなかったことが効果的だった。最後に高級レストランでカニを食べる場面があったが、食べ方がやや不作法で残念だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、昨年１２月に全国放送した「ノーナレ」を基にして、編集で削った部分も入れて鳥取県向けに放送したものだ。山口さんには、動けなくなった船をえい航中にその船が転覆して、何人もの仲間が亡くなったという経験がある。番組のタイトルのとおり、厳冬の日本海でのカニ漁は巨額の収入を得られることもあるが、絶えず危険な状況と隣り合わせだということも分かってもらえたのではないか。鳥取県を象徴するカニについては、今後も見つめていきたい。

○　３月９日(金)中国！ちゅうもく！ラジオ「ラジオＹＡＭＡＧＵＴＩＣ」を聞いた。ことしの３月下旬に運行が始まるＳＬやまぐち号を特集していた。機関車の汽笛や走行音がきれいに再現されていてとてもよかった。番組の中で流していた「銀河鉄道９９９」の歌も内容にマッチしていて効果的だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、鉄道の音をとることを趣味としている人に、一両目の最前列で収録した汽笛や機関車の音を提供してもらった。ラジオは音声だけで情報を伝えるので、番組を担当したスタッフは、音の魅力や可能性を改めて再認識した。これからもこういったラジオ番組を制作していきたい。

○　３月４日(日)小さな旅「いにしえの炎 立つ～島根県奥出雲町～」を見た。伝統的な日本刀を淡々と作っている様子を、のんびりと旅行しているように紹介していた。気持ちが穏やかになるような番組だったので、ゆっくりと見ることができた。

（ＮＨＫ側）

「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」は日本遺産に認定されており、鉄についての文化の一端を全国に知ってもらうことも考え制作した。たたら製鉄は、年の一時期に３回ほど非公開で操業しているが、その場面をぜひ映像で見てもらいたいと考え、今回関係者の協力を得て撮影することができた。

○　たたら製鉄は非公開で、年に数回しか操業していないことは知らなかった。鉄作りの様子をきちんと取材していることを知って改めて驚いた。

○　３月１１日(日)ＮＨＫスペシャル 東日本大震災「めざした“復興”はいま・・・～震災７年　被災地からの問いかけ～」を見た。被災地と被災地以外の意識の違いがよく分かった。原発事故で避難している人の中でも、帰還する人や避難を続ける人、避難先に定住する人などさまざまで、意識に差があることが浮き彫りになっていた。被災地ではかさ上げ工事が進み、災害公営住宅や商業施設が建設されていく映像を何度も見ていると復興が完了したという感覚になりがちだが、被災地の現実を知ってもらうためにも、このような番組を継続して制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

東日本大震災の復興とこれからについては、今後も継続して取り上げていくべきだと考えている。 震災直後に出てきた課題と、外見上、復興は進んでいるようにも見える７年後の現在になっても、新たに出てくる問題や課題があることを被災地の取材を通じて痛感している。復興が進んでも多くの課題が山積していることをきちんと取り上げていくことが大切だ。被災地では二つの風との戦いだという話を聞いた。一つが風化でもう一つが風評被害だ。われわれはとかく東日本大震災から７年が経過したと受け止めがちだが、現在も多くの課題に向き合っている人々がいることについてはこれからも継続的に取り上げていきたい。また、原発の問題については今後のエネルギー政策をどのように考えるといったことも含めて、継続して追っていきたい。

○　３月１２日(月)鶴瓶の家族に乾杯「絶景＆再会ＳＰ 蛭子能収と岡山県瀬戸内市ぶっつけ本番旅」を見た。ゲストの蛭子さんはコミュニケーションがあまり得意ではなく、旅の中でも後ろ向きの言葉が多かったが、出会ったみなさんが優しくて蛭子さんを導いて案内していたことが印象的だった。瀬戸内市の観光大使を務めるフランス人の方が、瀬戸内市牛窓町にある日本最大級の太陽光発電所や邑久町の竹久夢二が生まれた家などを紹介する場面があったが、彩りがよくさわやかで岡山県のよいＰＲになった。仕事と子育てで忙しい世代にとっては、この番組の時間が長いので、最初から最後まで通して見ることは難しいという気がした。

（ＮＨＫ側）

この番組は、まさにぶっつけ本番で収録する旅番組だ。今回のゲストの蛭子さんはあまり積極的に話をする人ではなく、笑福亭鶴瓶さんと別行動になってからは、出会った方に連れて行ってもらうシーンが多かったために、全体的に長く感じたかもしれない。内容的には温かい牛窓町の皆さんのおかげで、地元のよさがよく伝わっていた。とても人気がある番組なので、ぜひ引き続きご覧いただきたい。

○　「３月３日(土)ＥＴＶ特集アンコール「カキと森と長靴と」を見た。東日本大震災の直後からカキ養殖の再開に挑む畠山重篤さんに密着した番組で、畠山さんが自然を守るためにさまざまなことに挑戦したり、それを孫に伝えるために酒器を作ったりしたりしている場面がよかった。出演している畠山さんがナレーションをするモノローグのような演出や重厚なＢＧＭが印象的だった。番組の最後に、畠山さんの孫が１人でボートに乗って沖に出て行くシーンは、まるで映画のようだった。

○　最近、Ｅテレの「アニメ クラシカロイド２」を見ている。ベートーベンやモーツァルトのキャラクターをアレンジして、音楽をキーにして構築したアニメ物語で、見やすくおもしろかった。音楽家のつんく♂さんを起用してバッハの名曲を演歌調に編曲していたが、このような物語でクラシック音楽が子どもの心に残っていくことを知って、アニメという手法の奥深さを知った。

○　１月２７日(土)「経済フロントライン」を見た。視聴者の興味をかき立てるよいコーナーだった。

○　２月１７日(土)スペシャルドラマ「荒神」(ＢＳプレミアム 後 9：00～10：50)を見た。長い時間の番組だったが、最新のＶＦＸを駆使して描かれた映画のような映像で最後まで見た。主役の内田有紀さんが好演して、全体的にもキャスティングがよかった。

○　出張で海外に出かけた時に日本の情報を得るために、ＮＨＫのテレビ国際放送を見ている。外国人向けに英語放送をしているが、英語が得意ではない日本人のために日本語の字幕を付けてほしい。

（ＮＨＫ側）

国際放送は放送法で定められたＮＨＫの必須業務に含まれており、どういった人々に向けてどういった内容を放送するかが明確に定められている。具体的には「邦人向け国際放送」と「外国人向け国際放送」の二つに区別されている。「邦人向け国際放送」であるＮＨＫワールド・プレミアムは、海外の日本人向けの日本語チャンネルでニュースやドラマ、音楽、子ども向け番組などをお届けしている。一方で「外国人向け国際放送」は、テレビではＮＨＫワールドＴＶとして放送しており、外国人向けの英語チャンネルを中心に日本についての理解を深めてもらうためにニュースや情報番組を放送している。ＮＨＫワールドＴＶに日本語の字幕をつけてほしいという要望もあるが、外国人向けの放送については邦人向けとは異なる番組基準があるので、日本語の字幕をつけることはしていない。外国において日本人が日本語の放送や情報を得られるようにするために、放送だけではなくインターネットを活用した情報提供も検討していきたい。

○　「ＮＨＫオンライン」には「ＮＨＫ地域づくりアーカイブス」というサイトがあり、地域づくりに関する映像が公開されているが、これをさらに充実させてもらいたい。具体的には、これまで広島放送局が制作してきた「フェイス」といった地域放送番組にも地域作りに関する映像があるので、これらを含めた多くのコンテンツについて内容を精査しつつきちんと残していくことをぜひ検討してほしい。

（ＮＨＫ側）

このサイトでは、さまざまな地域の取り組みを紹介しており、良質なコンテンツは番組にも展開している。これまでＮＨＫは、テレビやラジ

オで視聴者に向けて情報を伝えていたが、インターネットを活用することで双方向の交流が可能になり、さまざまな可能性が広がっている。例えば「らじる★らじる」を活用することによって、ラジオでどのような番組がどのように聞かれているのかということが分かるようになった。委員の指摘も踏まえインターネットを使ったサービスについては、引き続き充実させていきたい。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　３月２日(金)ふるさとの逆襲「女子会本音トーク！女性が輝けば 街も元気に」を見た。まるで女子会のようで楽しかった。生放送でツイッターの投稿ができるのは自分も参加しているようでおもしろかったが、トークの途中でテロップが出たので番組に集中できなかった。萩市を紹介する時に地元の人に元気な女性たちのことを聞く男性が出ていたがインパクトがあった。この番組で気になった店や幼稚園を調べようとしたが、ＮＨＫのサイトには掲載されていなかったので、関係先のアドレスを掲載してほしい。

○　ピョンチャンオリンピック・パラリンピックでは、日本勢のすばらしい活躍を放送で見ることができた。特にスピードスケートの女子団体パシュートでは、一糸乱れることがないチームワークがどのように誕生したのかを事前にドキュメンタリーでも見ていたので、興味深く見ることができた。団体パシュートの光の当て方がすばらしかった。一連の競技については、ハイライトにして視聴しやすい時間に放送してほしい。

○　３月１１日(日)「最後の講義 大林宣彦」（ＢＳ１ 後９：00～９：50)を見た。一つ一つの言葉が心に響いた。この番組は３時間におよぶアメリカの大学講義を５０分にまとめたものだが、できればそのままの講義を視聴したい。映画を志す青年たちがこの番組を見ることができれば、すばらしい講義になるのではないか。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成３０年２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。議事に先立ち「ＮＨＫ経営計画 2018-2020 年度」の概要についての説明と最近の番組について報告があり、議事に入った。

議事はまず、「平成３０年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について、報告があった。引き続き、「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」の諮問の説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、３月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　安井　　弥　（広島大学大学院医歯薬保健学研究院院長）
副委員長　上大岡トメ　（イラストレーター）
委　　員　伊藤　康丈　（イワミノチカラ　代表）
坂本トヨ子　（株式会社サカモト　代表取締役）
坂本　直子　（走健塾　ランニングアドバイザー）
佐田尾信作　（中国新聞社　論説主幹）
鷲見　寛幸　（大山町教育委員会教育長）
中村　寿男　（有限会社中村茶舗 代表取締役）
納所裕美子　（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
古市　了一　（株式会社ふるいち 代表取締役）
松嶋　匡史　（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
渡部　朋子　（ＮＰＯ法人　ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜「平成３０年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　「平成３０年度国内放送番組編集の基本計画」の中で「個々の放送・サービスの『役割』や『到達度』などの視点を取り入れ、適切な評価・管理体制を構築していきます」

とあるが、具体的にはどういったことを指しているのか説明してほしい。

（ＮＨＫ側）

これまでは視聴率のデータやアンケート調査などの結果を用いて番組の評価を行ってきたが、視聴率の数字に重きを置いて分析する場合もあった。公共放送として伝えるべき情報やマイノリティーの皆さんの意見や考え方を反映できる番組を開発することなどを通じて、公共放送としての使命を達成するための尺度を客観的に説明できる手法を作りたいと考えている。

○　「平成３０年度国内放送番組編成計画」で示されているＥテレの「世界の哲学者に人生相談」という番組を楽しみにしている。相談室長を高田純次さんが務めるということだが、どのような内容になるのか伺いたい。

（ＮＨＫ側）

Ｅテレは、子ども向けの番組や学校放送だけではなく、２０代から５０代までの現役世代にも見てもらえる教養番組の開発に努めている。「世界の哲学者に人生相談」はそうした番組のひとつで、世界の哲学者のさまざまな言葉をヒントにして、視聴者やゲストの悩みを一緒に考えていく番組だ。視聴者の悩みや相談については、ホームページを通じて、番組作りに取り入れることを検討している。

○　Ｅテレの「基礎英語０～世界エイゴミッション～」に興味がある。ラジオ第２では「基礎英語０」が始まるとのことなので、どのように連動しているのか伺いたい。

（ＮＨＫ側）

Ｅテレでは多くの語学番組を制作している。特に英語についてはさまざまな人を対象に番組を開発しているが、「基礎英語０～世界エイゴミッション～」は、2020 年に教科化される小学校５・６年生を対象にした英語の語学番組だ。ラジオ第２の「基礎英語０」との関連については改めてご案内したい。

○　今回、平成３０年度の新番組について説明があったが、その一方で廃止される番組について伺いたい。放送を終える一つ一つの番組にも理由があると思うが、その

経緯や理由についても説明してもらえれば、新番組についてもＮＨＫと番組審議委員で有意義な議論ができるのではないか。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見はもっともなことだと受け止める。ただすべての番組についてひとつずつ説明する時間がないので、番組編成の改定について大まかに申し上げる。廃止する番組については、時代の成り行きや人々の生活などと照らし合わせて番組としての役割を終えたと判断したり、当初の編集の基本方針に合わなくなってきたりしたというケースがある。例えば総合テレビについては、曜日や時間帯によってどのような視聴者に見てもらうかというねらいを明確にすることにしている。具体的には、平日の午後から夕方にかけては男女を問わず働いていたり、家族で一緒に子育てをしていたりする人が多いので、そういった人々を想定して番組編成を検討している。当初の編集の基本計画と合わなくなった番組については、曜日や放送時間を変更したり、廃止したりすることもある。最近では現役世代には、深夜にもテレビを見る人が増えていることから、夜遅い時間帯に現役世代にふさわしいコンテンツを充実させてはどうかという議論もしている。このように幅広い世代に番組を見ていただくために、どのような時間帯にどういった番組を編成すればよいのかという議論を行いながら、平成３０年度の国内放送番組編成計画を策定した。さまざまな調査や研究のデータを用いて検討を行ったが、実際に放送してから視聴者の番組視聴の動向や反応などを見ながら、必要に応じて見直しをしていきたい。

○　「平成３０年度国内放送番組の編成計画」については、日本国内の視聴者に向けた番組編成だという印象が強い。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外からやってくる外国人が増えると思われるが、さらに放送を通じて外国人向けのアプローチを検討することが必要ではないか。とかくスポーツに目が行きがちだが、日本の社会や文化なども英語の字幕を入れたりして効果的に取り上げれば、外国人客を引き込むこともできるのではないか。ＮＨＫには良質なコンテンツが多いので、2020 年に向けて日本各地の名産品を番組で紹介して外国人の客を呼び込めれば、地方の活性化にもつながると思う。また、「ＮＨＫオンデマンド」のコンテンツは有料サービスだが、外国人に番組を限定して一定期間を見放題にするといったキャンペーンができれば、インバウンドの客にも関心を持ってもらえるので

はないか。

（ＮＨＫ側）

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに多くの外国人客に来てもらうために、どのようなことができるか検討している。例えば「ＣＹＣＬＥ ＡＲＯＵＮＤ ＪＡＰＡＮ」という番組は国際放送局で制作しているが、これを英語版から日本語版にしてＢＳプレミアムでも放送している。日本国内の多様な特色や魅力ある自然やイベントなどを伝えている。委員の指摘のとおり、東京オリンピック・パラリンピックに来るだけではなく、日本各地の特性なども知ってもらいたいと考えている。2020 年に向けてスポーツだけではなく、日本各地の特色や豊かな文化など、世界に誇るべき部分を取り上げる番組も増やしていきたい。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫワールドＴＶは、国内では放送してないが、ＮＨＫのウェブサイトから見てもらえるとともに、国内ではＣＡＴＶで見ることもできる。日本に滞在中にホテルの受信機で視聴できるので、こういったことも海外から訪れる人にＰＲしていきたい。

○　「ＮＨＫオンデマンド」の番組についても、英語の吹き替えや字幕を付けたりすることは今後必要になると思う。

（ＮＨＫ側）

外国人がＮＨＫのコンテンツを利用するという点で、重要な指摘だと思う。

○　「平成３０年度国内放送番組編成計画」の「補完放送等の放送計画」の中に「ハイブリッドキャスト」とあるが、どういうものか説明してほしい。

（ＮＨＫ側）

「ハイブリッドキャスト」は放送と通信が融合した、テレビにまつわる付加的な情報を伝えるサービスで、専用の受信機で見ることができる。例えば連続テレビ小説「わろてんか」では、テレビに映らない

撮影現場の様子を「３６０°ビュー」で見たり、ドラマのメイキング映像や特別映像などを楽しんだりすることができるコンテンツになっている。

○　ハイブリッドキャストをどれだけの視聴者が見ているのかよく分からないが、ＮＨＫが経営資源を投入して制作すべきサービスなのか疑問に感じる。

（ＮＨＫ側）

よくＮＨＫの番組をご覧いただいている視聴者に加えて、若い世代にも番組を見てもらうにはどうすればよいのかという検討を続けている。若い人は幼い頃からネットの扱いにたけているので、今回説明したハイブリッドキャストを使ってもらって番組に親近感を覚えてもらおうと考えている。このほかにもツイッターやフェイスブック、インスタグラムといったＳＮＳ、ＮＨＫのホームページなどを活用して、大河ドラマや連続テレビ小説などさまざまな番組を見てもらえるような工夫をしている。今後もこのような取り組みを進めていきたい。

＜「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」について＞

○　「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」の「基本方針」の中で、「核兵器廃絶と平和へのメッセージを全国に、世界へ向けて積極的に発信し」とありその点は評価したい。ただ、核兵器の小型化や北朝鮮の問題で世界情勢が緊迫している中で、もし核兵器が使われた場合に一体どうなるのかということについても、原爆体験した広島だからこそ説得力のある番組やニュースを、世界に向けてさらに発信してほしい。また岩国基地の米軍機の動向も気になる。山口県岩国市だけにとどまらず、中国地方全体に関わるので、今後も取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

核兵器廃絶への取り組みについては、ことし８月に放送を予定している「ＮＨＫスペシャル」の取材と新たな資料の掘り起こしを始めた。頂いた意見も入れながら取材を進め、発信していきたい。米軍・岩国基地の問題については、事実と証拠を積み重ねる取材を続けていきたい。

（ＮＨＫ側）

先日、山口放送局では岩国基地の周辺で観測される騒音が増えているというニュースを独自取材で伝えた。山口局としては、今後は九州・沖縄などのＮＨＫとの連携も視野に入れながら、この米軍基地の問題を伝えていきたい。

○　岡山放送局の重点事項について、「岡山県の魅力や課題を丁寧に掘り起こし、県域サービスの強化に努めます」とあるが、岡山県では道路に歩道が少なかったり、歩道があっても傾斜や凸凹があって例えばベビーカーを押すことが難しかったりするなど、社会的なインフラに疑問を感じることが多い。母親や子どもなどあまり声を上げることがない人々の感覚や気持ちなどもくみ取りながら、地域の課題についても取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

ことし１月に岡山県赤磐市の県道で集団下校中の小学生６人の列に軽トラックが突っ込んで、小学４年の女の子が死亡した。この事故については、単に死亡事故が発生したことを伝えるだけではなく、事故の原因や背景についても取材を続けている。今後も岡山県の魅力と課題の両面について取材を行い、積極的に伝えていきたい。

○　松江放送局の重点事項について、「平成３０年は、江戸時代後期に茶人として活躍した松江藩主・松平不昧公の没後 200 年となる節目の年」で「関連番組などで地域を盛り上げます」とあり、地元でも計画は進んでいるが、ＮＨＫの独自の企画を期待している。

○　鳥取放送局の重点事項の中で「平成３０年に開山 1300 年を迎える中国地方最高峰の大山」について言及して、たいへんありがたく感じている。平成３０年は大山にとって開山 1300 年という切りのいい年であり、これを機に番組やニュースを通じて全国に大山の魅力をさらに紹介してほしい。

○　山口放送局の重点事項で、平成３０年の「明治維新 150 年」を機に郷土の歴史を見つめ直し、「未来を切り開く若者のメッセージをデジタルサービスも活用して発信」すると書かれているが、発信する対象が重要ではないか。山口県外に出る若い人たちに、いずれ山口県に住みたいと思ってもらえるような番組を、またその両親

には山口県の長所を伝えて子どもにも山口がいかにいいところかということを紹介してもらえるような番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

今いただいたアイデアは、ぜひ参考にさせていただき、できるだけ多くの人に見てもらえるような工夫と研究を続けていきたい。

○　「明治 150 年」については、明治維新を礼賛したり、行政のキャンペーンに影響されたりしないような企画を期待している。

○　諮問された「平成３０年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成で生かされることを前提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。

○　異議なし

（ＮＨＫ側）

本日の答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、３月の番組審議会で編成計画について説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１月２６日(金)フェイス「再生医療・研究開発最前線～広大発ベンチャー挑戦」を見たが、ゲストの人選がよく分からなかった。もっと適切なゲストがいたのではないかと残念に感じるとともに、番組のねらいから外れているような違和感があった。なぜ最先端の研究が医療現場で生かされないのかという点や何が課題になっているのかという点についてさらに伝えてほしかった。今後深く掘り下げて取材してほしい。期待している。

（ＮＨＫ側）

ゲストについては、脳梗塞を患い自分自身の足でもう一度立ってみたいという気持ちが強く、番組の後半でも紹介したように、ロボットを使った義足を待望していることが分かったので、出演してもらった。番組の中で丁寧な説明がなかったために、指摘のような違和感が生ま

れてしまったのかもしれない。頂いた意見は現場に伝えたい。最先端の医療については、難解な問題をＣＧを使って丁寧に説明しようとしたが、研究にはどういった壁があったのかといった部分や研究開発から実用化までの部分が描き切れていなかったかもしれない。このテーマについては継続的に取材していきたい。

○　私もこの番組を見た。身近な広島大学が最先端医療にチャレンジして、成果を上げていることが分かった。広島でもこのような研究があることで、中国地方にも最先端の治療が受けられる事実を丁寧に教えてもらった。２月７日(水)「しまねっとＮＥＷＳ６１０」でも、島根県益田市の医師会が研修生に「親父の背中プラグラム」という取り組みをしていることを紹介していた。地域医療についての研究に取り組んでいるという情報を部分的に伝えていた。最近は医療に敏感な人が多いと思うので、定期的にタイムリーな特集を伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

この番組では、広島大学で１０年間電子工学と再生医療を結びつける最先端の研究をしていることを取材した。放送後、再生医療についての問い合わせをいただいたこともあり、視聴者の関心も高いので、今後も注目して伝えていきたい。

○　１月１２日(金)シリーズ「瀬戸内宝石箱」「芸予諸島　四季の色」(総合 後7：30～7：59 中国ブロック)を見た。島々の四季の色が季節ごとによく表現されていて、すてきな映像だった。その色にまつわる島の人々の生活と営みをうまく伝えていたのもとてもよかった。瀬戸内の風景の美しさについて、「秋はカキの白い色で、海の贈り物、しあわせのミルク色」「冬の柑橘系のオレンジは若者の希望の色」といったうまいコメントで表現していたのもよかった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、芸予諸島の四季を色にスポットを当てて紹介した。超高精細の４Ｋカメラで撮影したことで、色をひときわ鮮やかに表現させることができた。番組のコメントについて、おほめの言葉をいただいたがとてもうれしい。担当のディレクターにも伝えたい。

○　１月２６日(金)レシピ 私を作ったごはん「“わろてんか”に出演中！前野朋哉」(総合 後８：00～８：43 中国ブロック)を見た。岡山県倉敷市出身で、連続テレビ小説「わろてんか」に出演中の前野朋哉さんがチーズ入りの煮込みうどんを作りながら、家族との感動秘話を交えて紹介していた。番組の中でところどころに笑う部分もあり、心が温まる番組だった。「わろてんか」の前野さんの役柄を含めて彼の良い面をうまく引き出していた。彼のお母さんが「熱いものを熱いうちに食べさせよう」としていたことを、担任の先生が生徒の保護者に向けて手紙に書いていたことにも心を打たれた。

（ＮＨＫ側）

「レシピ 私を作ったごはん」は、岡山にゆかりのあるゲストを招いて料理にまつわるエピソードや秘話を取材し、実際に料理を作りながら紹介し、ゲストの人生観が分かる番組を目指している。前野さんが岡山県のＰＲ動画を監督していたことは県内でも知られているが、「レシピ 私を作ったごはん」は中国地方に向けて放送しているため、番組の中で前野さんが「わろてんか」に出演していることを紹介しドラマの映像を使用した。岡山県ではよく知られた倉敷の映画館の話もあり、視聴者から寄せられた反応はよかった。

○　私も「レシピ 私を作ったごはん」を見た。前野さんのお母さんが手料理を食べさせたいという気持ちがよく伝わった。将来、前野さんは次の世代に何を付け加えて、どのように子どもを育てていくのか気になった。

（ＮＨＫ側）

指摘のあったマニキュアについては、ディレクターの配慮が行き届いていなかった。今後気をつけたい。

○　１月１９日(金)とっとりスペシャル「大雪に備える」を見た。昨年、鳥取県は大雪で交通がまひした。この番組は、本格的な雪が降る前に放送されたが、ことしは雪が降らず拍子抜けした。スタジオでは交通まひになった原因を説明して、その対策を３０分でうまくまとめていた。ことしは北陸地方に大雪が降ったので、この番組を全国に放送されれば役立ったのではないか。記者が現地の状況を取材してスタジオで伝えていたが、熱意がよく表れていた。鳥取県がホームページで「雪道ナビ」を掲載していることを番組の中で取り上げれば、視聴者側に立った説明になったの

ではないかと思った。

○　私も「とっとりスペシャル」を見た。鳥取県大山町では、ことしは積雪が少なめだったが、昨年の大雪では家の屋根が壊れたり、交通事故も多発したりするなど大雪は切実な問題なので、この番組はタイムリーな放送だった。

（ＮＨＫ側）

昨年の鳥取県の大雪については､行政にも責任があると感じている。除雪が遅れ、作業方法にも課題があったように感じたので、ことしは原因がどこにあったのかを検証して、雪が降る前に放送する計画を立てた。ことしは山側については雪が少なかったが、海側については昨年より多かった。大雪で飛行機が欠航したこともあって、視聴者からはよいタイミングで放送してくれたという好評の意見を多くいただいた。昨年の反省を生かしてほしいという県民の思いは自治体にも伝わったのではないか｡大雪に限らず､自然災害への備えが重要なことは、今後も発信していきたい。

○　１月１４日(日)「第３６回全国都道府県対抗女子駅伝」(総合　後 0：15～3：12)と、１月２１日(日)「第２３回全国都道府県対抗男子駅伝」(総合 後 0：15～3：13)を見た。ＣＭがなく、コースの観光地などを控えめに紹介していたのがよかった。厳島神社の紹介しているときにレースが動き、レース映像に戻ったときに先頭集団の順位が替わっていたのが残念だった。男子駅伝は、元マラソン選手の尾方剛さんが解説を担当して、分かりやすく丁寧に説明していたが、女子駅伝では解説が２人で選手目線で伝えていたので、女子駅伝のようにしてもらえれば視聴者は楽しくなったと感じた。区間賞のインタビューが競技中に急に入って、解説が途切れてしまったので、一呼吸置いてインタビューが入るとよいと思った。１月１３日(土)「駅伝のオールスターゲーム 全国女子駅伝・男子駅伝スペシャル」(総合 後 5：00～6：43 全国)を見たが、とても面白かった。この番組で駅伝を見ようという人が増えると思うので、今後もこのような番組を期待している。

（ＮＨＫ側）

今回の駅伝中継については、解説者の人選を含め、視聴者からさまざまな意見をいただいた。ことしの放送内容を検証して、改善していきたい。

○　２月１１日(日)うまいッ！「うまみ濃厚！舌に繊細！山口宇部ワタリガニ」を見た。ワタリガニがとてもおいしそうだったので、宇部市の観光協会のホームページを見たが、どこで買えるのかといった情報がすぐに出てこなかった。地元でもワタリガニをそれほど地元の誇りだとは思っていなかったのか、もっと売りに出せるとは思っていなかったのかもしれない。地元の人たちに、宇部のワタリガニが、ほかから見ると実はすごいものだと感じてもらうことが、非常に重要なことだと感じた。外国人に試食してもらって、日本にはこんなにすばらしい食材があるということを、ほめてもらう場面があるとよいと思った。これからは外国人の目線を大切にすることが大事だと思う。

○　１月２９日(月)プロフェッショナル仕事の流儀「ワンちゃんスペシャル」を見た。この番組では、トリマーや獣医師、訓練士を取り上げていた。それぞれの職業で犬への関わり方は異なるが、犬を愛して生命を尊ぶ気持ちや、犬を救うことが飼い主を救うことにつながることをうまく伝えていた。

○　２月１４日(水)ＮＨＫスペシャル「金メダルへ“ＪＡＰＡＮ”ＷＡＹで挑む～スピードスケート・女子パシュート～」を食い入るように見た。空気抵抗を最小限にするため、「一糸乱れぬ隊列」を組み、高速で先頭のスケーターを交代する練習を重ねて、ことしのワールドカップでは全勝したことが分かった。ピョンチャン・オリンピックでも、この女子パシュート競技を見たくなった。番組では日本の戦略や練習内容を細かく分析していたが、次に開催される北京オリンピックで模倣されたりしないか心配になった。

○　１月２８日(日)ＮＨＫスペシャル　未解決事件Ｆｉｌｅ．０６「赤報隊事件　戦慄の銃弾　知られざる闇」を見た。赤報隊を称賛するような勢力のデモが最初に映し出されていて驚いた。この番組は、新しい興味深い材料を提供していた。ただ、一連の事件が同じ根っこから出たものかは分からない。一線の記者を殺傷したのは阪神支局事件だけで、警察の捜査手法を疑問視する見方もある。今後もこの事件を追跡してほしい。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫスペシャル」の「未解決事件シリーズ」は、これまで「グリコ森永事件」や「オウム事件」などを取り上げてきた。今後もご覧いただき、ぜひ意見を伺いたい。

○　１月２７日(土)「経済フロントライン」(ＢＳ１サブチャンネル 後 10：00～10：49)を見た。「未来人のコトバ」のコーナーで、山口県萩市にある道の駅「萩しーまーと」の中澤さかなさんが、「地域の資源は、地域の中からの視点だけでは、なかなか見つけにくい」といった趣旨の発言をしていたことに共感した。地元の人たちには当たり前のことでも、地元の宝になる場合があることを改めて気付かせてもらった。そういう「気付き」を促すことは、メディアの役割も同様ではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「経済フロントライン」の中で、中澤さんは中国の「論語」を引用しながら独自の経営哲学を語っていたが、地域の宝を再発見して発信していくことは、まさに地域のＮＨＫの重要な責務だと思っている。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成３０年１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木）、広島放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、平成３０年２月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	安井　弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	伊藤　康丈	（イワミノチカラ　代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古市　了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

＜放送番組一般について＞

○　１月５日(金)フェイス「境界をこえて舞え～障害者神楽フランス公演」(総合 後6:10～6:39 中国ブロック)を見た。知的障害があるというメンバーが頑張っている姿を細かく取材していて、フランス公演に取り組む様子がよく伝わった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、障害者の方がフランスに神楽を舞うために行くためだけでなく、神楽を通して一歩前進する様子が番組の中で紹介できてよかった。

○　私もこの番組を見た。岡大介さんは最初のうちは引っ込み思案の様子だったが、フランス公演で積極的になっていく姿を見て、どのようにこの番組を制作したのか不思議に思った。神楽に取り組みながらだんだんと変わっていく岡さんに寄り添い、番組の内容を柔軟に変えながら制作を進めていったことが分かった。

（ＮＨＫ側）

番組で紹介した神楽団が福祉施設で神楽を３０年近く取り組み続けていることやフランスに招待されたことで、松江局としては神楽が紹介されることをニュースでも取り上げた。取材を進める中で、岡さんには障害があるが、神楽の話題になるととても積極的になるということを知り、フランスの芸術祭に招待されて練習を重ねてさらに一歩踏み出せるようになったので、今回の「フェイス」ではその姿を追って紹介することができた。

○　１２月１５日(金)ふるさとの逆襲「“稼げる町”続々！地元が潤う錬金術」(総合 後7:30～8:43 中国ブロック)を見た。活動資金はどう工面するのか、また収支はどうするかといった、視聴者が本当に知りたい情報が少なかったが、それがあれば視聴者にも力を与えられる番組になったと思う。「ふるさとの逆襲」というタイトルは、元気が出てくるように感じられてよかった。

（ＮＨＫ側）

「ふるさとの逆襲」の二回目は、お金という視点から多くの事例を紹介するように取り組んだが、さらに立体的に多角的に深く掘り下げる必要があったかもしれない。今後の参考とさせていただきたい。

（ＮＨＫ側）

「ふるさとの逆襲」のタイトルについては、視聴者からさまざまな評価を頂いた。「高齢者の逆襲」などほかにもさまざまな“逆襲シリーズ”を制作してほしいという意見も寄せられた。

○　１月５日(金)「瀬戸内宝石箱　うみの色　しまの色」(総合 後 7:30～7:59 中国ブロック)を見た。はじめは映像の美しさを追求するという番組の趣旨がよく分からなかったが、この番組を見て４Ｋの美しさがよく分かり、映像に対する考え方が変わった。

○　「瀬戸内宝石箱　うみの色　しまの色」は絵画を見ているようで、本当にすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組については、岡山局が積極的に４Ｋで美しい映像を撮影、岡山県内に向けて紹介していたことからスタートした。今回はその映像に加え、広島局また四国の松山局もそれぞれ瀬戸内海の美しい風景を４Ｋで撮影した。地上波で見ても４Ｋの映像の美しさが十分伝わることを改めて感じた。

○　１月１２日(金)「瀬戸内宝石箱　芸予諸島四季の色」(総合　後 7:30～7:59 中国ロック)を見た。しまなみ沿いの岩城島の尾根の桜並木がすばらしいと思った。いいところに目をつけたと思った。

（ＮＨＫ側）

この島の桜並木は、高度成長期に島を出て行く人たちが、そのたびにふるさとを思い植え続けてきたもので、今では見事な桜並木となっている。島民のみなさんの心の故郷になっている景色だと思う。ドローンや超高精細映像の４Ｋや８Ｋの技術などを生かしながら、今後もこうした風景を伝えていきたい。

○　１２月２２日(金)「お好みワイドひろしま」の中で、被爆樹木の紙芝居を丁寧に取り上げてもらってうれしかったが、被爆樹木の中で最も大事な爆心地に樹木が傾いていることがよく伝わっていなかった。科学的な事実とファンタジーに近い紙芝居についてもっと突っ込んだ取材があれば、よい内容になったと思う。各局の地域放送番組については、さらに取材を続けていれば全国放送番組よりもよいものができるのではないかという可能性を感じた。いろいろな大きな世界の動きなどを伝えるにはとてもいい時間帯だということを改めて認識した。

（ＮＨＫ側）

「お好みワイドひろしま」は、取材の中で記者やディレクターが取材相手に教えていただいて成長させてもらうことがある。今後も試行錯誤をしながら制作していきたい。

○　１月７日(日)@ｏｋａｙａｍａ「プロフェッショナル」がやってくる～高梁市出身！ワイン醸造家・仲田晃司～」(総合 後1:05～1:35 岡山県域)と、１月８日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「いつだって、人生は楽しい～ワイン醸造家・仲田晃司～」を見た。仲田さんは遠い存在だと思っていたが、「岡山のまんじゅうが好きだ」ということが紹介されていて親しみが湧いた。仲田さんはポジティブな方で、「やればやるほど結果に現れる」という言葉が響いた。

（ＮＨＫ側）

「プロフェッショナル 仕事の流儀」については、ディレクターが世界で活躍している岡山県の出身者から仲田さんを見い出して制作した。取材する中で、岡山県のみなさんに見ていただくために、ディレクターが突っ込んだインタビューを考えながら撮影し、仲田さんの岡山のまんじゅうに感激するシーンが撮れたのではないか。

○　１月８日(月)プロフェッショナル仕事の流儀「いつだって、人生は楽しい～ワイン醸造家・仲田晃司～」を見た。仲田さんが「流行を追ってはいかん」ということばが特に印象に残った。ナレーターの貫地谷しほりさんと橋本さとしさんが冷静に説明し、ＢＧＭと調和した演出がとてもよかった。岡山のソムリエやバーテンダー協会の人たちにこの番組を見たかと尋ねたが、一人も見ていなかったことにショックを受けた。ＳＮＳを含めて番組のＰＲをして、もっと多くの人に見てもらって、地域の活性化につなげていくことが重要だと感じた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫの視聴者には６０代・７０代の方が多いが、放送で番組のＰＲをしてもその放送を見てもらうことが難しい。番組をどのように知ってもらい、さらに視聴者を拡大するためにどのようにしていけばよいか、今後も検討・工夫していきたい。

○　１月１３日(土)ファミリーヒストリー「アンコール星野仙一～父と母の生きざま燃える男の原点～」(総合 前 10:05～10:53)を見た。この番組を見るまで星野さんをよく知らなかったが、「仕事に闘争心がないのは生活権の放棄で、人生を放棄している」という趣旨の言葉が印象に残った。

（ＮＨＫ側）

１月１３日(土)「ありがとう星野仙一さん”闘将”が残した言葉～」(総合 前11:25～11:54 岡山県域および中部ブロック)については、１月４日に星野さんが亡くなったために、中日ドラゴンズの本拠地がある名古屋局が制作し、中部地方に向けて急きょ生放送することになったが、星野さんは岡山県児島郡福田町(現・倉敷市)が出身地で岡山県にもゆかりがあるので、岡山県内にも向けて放送した。今後も柔軟な番組編成をしていきたい。「ファミリーヒストリー」は、星野さんが複数の球団を優勝に導いた名将であることを示しながら、リーダー論にもなっていたと感じた。

○　私も「ありがとう星野仙一さん”闘将”が残した言葉～」を見た。星野さんが残した言葉を通じて訴え、星野さんの功績を知ってもらいたいと考えるなら、星野さんとゲスト出演者がどういう関係だったということを、番組冒頭で説明してもらうともっと分かりやすかった。

（ＮＨＫ側）

「ありがとう星野仙一さん”闘将”が残した言葉～」については、事前に岡山県での星野さんの知名度や人気度などの情報や要望を入れておくことができれば、指摘のように番組の構成についてもさらに工夫ができたかもしれない。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫの地域放送番組について指摘を受けた気がする。振り返って考えると、例えば広島局が制作する番組をほかの地域でも放送する場合も、中国地方では当たり前のように受け止められていることでもほかの地域ではそうではないかもしれない。そういった点についても検討すべきだということを改めて感じた。

○　「超入門！落語 ＴＨＥ ＭＯＶＩＥ」は本当に面白い。落語を映像にすることで、江戸時代のことが分からない人たちに想像力を膨らませていくという意味ではとてもよい番組だ。これからもいろいろな落語を出してほしい。

○　１月１３日(土)「おはよう日本」の「冬点描」で、ＪＲ三江線沿線の雑貨店をカメラマンの視線を通して伝えていた。消え去る記憶や現状をＮＨＫの取材力と番組の力で全国に伝えていたのがとてもよかった。

（ＮＨＫ側）

「おはよう日本」の「冬点描」は、報道カメラマンが中心になって取材・制作している。通常は事件や事故、災害などを中心に取材しているが、人々の生活や暮らしを切り取ることも報道カメラマンの大きな使命だ。夏には「夏点描」をレポートするので、また感想を伺いたい。

○　１２月３１日(日)第６８回ＮＨＫ紅白歌合戦「夢を歌おう」(総合 後 7:15～11:45)家族と一緒に楽しんで見た。番組の内容や構成が大きく変わって、制作スタッフが努力していることがよく分かった。

○　１２月３１日(日)「ゆく年くる年」(総合 後 11:45～0:15)は、過疎地域の取り組みを全国に知ってもらう機会を作ってもらったと思った。地元としても非常にありがたかった。

（ＮＨＫ側）

「ゆく年くる年」は、地元の隠れた話題や情報を全国に伝えることができて非常によかった。三江線にまつわる話題については、今後も注目していきたい。

○　１２月２７日(水)さし旅「神社マニアと巡る初詣開運ツアー」(総合 後 8:15～8:42)を見た。神社マニアの方がよく研究していたので、興味が湧いて初詣にも役立った。

○　１月１日(月)「究極ガイドＴＶ２時間でまわる伊勢神宮」(総合 前 7:20～9:19)を見た。古事記などを紹介しながらルートを追っていたので、まるで自分が伊勢神宮に行ったような気持ちになった。

○　１２月２３日(土)ＥＴＶ特集「老いて一人 なお輝く～一人芝居　５０年～」(Ｅテレ 後 11:00～11:59)を見た。「土佐源氏」という作品自体をめぐる話をもう少し盛り込んでほしかった。俳優の坂本長利さんについては、これまで作品を巡る議論

がありながら、それをどのように受け止めて芝居を続けてきたのかという点についても、もっと踏み込んで聞いてもらいたかった。ただ味のある番組だった。

（ＮＨＫ側）

「ＥＴＶ特集」は、坂本さんの執念が伝わってきたと思う。最後の出雲公演の予告では４０年前に彼の芝居を見たという人や、２回目だという客もいた。年輪のある味のある演技だと感じた。

○　１２月２６日(火)すイエんサー「設計図を作ろう！“カッパまき”の巻」を見た。科学を生活の中で取り入れて学べるすばらしい番組だと思った。

（ＮＨＫ側）

Ｅテレは奥が深く「すイエんサー」などは、子ども向けの番組としてもとてもためになるという評価を頂いている。

○　　１月７日(日)ＢＳ１スペシャル「西へ“一帯一路”の奔流(前編・後編)」(ＢＳ１後 10:00～11:50)を見た。シルクロードで栄えた国が、一帯一路で繁栄していく様子を分かりやすく解説していた。ナレーションがドラマチックで、前編と後編をじっくりと見た。

（ＮＨＫ側）

「ＢＳ１スペシャル」は、今後、日本は人口が減って行く中でどうあるべきか考えさせられた。非常にドラマチックで面白かった。

○　「世界入りにくい居酒屋」を初めて見た。とてもおもしろい番組で、過去の番組についても録画で視聴している。

（ＮＨＫ側）

「世界入りにくい居酒屋」には、３つの番組のコンセプトがある。１つは愛すべき居酒屋の店主であることで、２つ目は観光客がいないこと。３つ目は地元の常連客や泥酔した客がいるということで、見ていて楽しくなる番組だ。今後もご覧いただきたい。

○　１２月２９日(金)「絶望名言～歳の瀬 倒れたままでいいじゃない～」(ラジオ第１後 8:30～10:30)を聞いた。世の中、みんな、明るく生きようという方向に行きがちだが、ドイツの詩人・ゲーテたちのことばを聞いて、無理に明るくなる必要はないのではないかと思った。この番組は「らじる★らじる」で聞いたが、「らじる★らじる」をもっと広めてほしいと感じた。

（ＮＨＫ側）

「絶望名言」は、１２月２９日(金)に年末のさまざまな様子を紹介した「１５時間オリエンタルラジソン」の中の特集の一つだ。絶望しているときには「頑張れ」ということばより、絶望に寄り添うほうが悲しみに向き合って立ち直るきっかけを作るのではないかという趣旨で制作したが、リスナーからも反応があったようだ。「らじる★らじる」を通じては、広島局でも平成２７年９月から全国に向けて伝えている。毎週金曜の午後５時からは、中国地方に向けて「中国！ちゅーもく！ラジオ」を中国地方の各放送局が制作・放送している。「らじる★らじる」では、各地の番組を全国で聞くことができるので、リスナーからも注目されている。

（ＮＨＫ側）

インターネットサービスの「らじる★らじる」を通じて、いくつかの地域のラジオ番組は全国で聞くことができる。中国地方や広島県に向けて、広島から放送しているラジオ番組についても日本各地でインターネットを通じて聞くことができるので、ぜひ活用していただきたい。

○　1月１３日(土)ＦＭシアター「ばっちゃんの親子丼」を聞いた。力作だったが、声優の力量がいまひとつだと感じた。再度チャレンジしてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

この「ＦＭシアター」は、広島に実在する女性をモチーフに制作した。本人のことばが力強くとても説得力があって、ドキュメンタリーでは描けない部分をドラマにしたいと考えたが、難しい面もあった。実在している人物をドラマにする場合には、さらに工夫を重ねていきたい。モデルとなった女性の活動については、今後も工夫して伝えていきたい。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　１２月２５日「プロフェッショナル仕事の流儀 野球の神様に、愛されるほどに プロ野球スカウト苑田聡彦」（総合 後 10:00～10:49）を見た。選手以上に難しいスカウトの立場に密着させてもらったことに感心した。それぞれの地区にスカウト担当がいて、それを統括する苑田さんや会議に出席している人数の多さに、さすがプロ野球だと感じた。随所に見られる苑田さんのチーム愛が分かり、こういう方がいるからチームが強くなったと感じた。生え抜きの選手をじっくり育てるという方針に共感した。今後もこういったスポーツの現場で働く裏方の人たちの番組を期待したい。

○　１月５日（金）「瀬戸内宝石箱 うみの色 しまの色」（総合 後 7:30～7:59 中国ブロック）は、芸予諸島の四季を色で表現するという手法が新鮮でよかった。また、芸予諸島の四季の魅力を、すてきな風景とともに紹介していて、私も行ってみたいという気持ちになった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年１２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木）、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、平成３０年１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	伊藤　康丈	（イワミノチカラ　代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古市　了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１２月８日(金)ふるさとの逆襲「過疎が終わる！？田舎に人が逆流」(総合 後 7:30～8:43 中国ブロック)と１２月１５日(金)ふるさとの逆襲「“稼げる町”続々！地元が潤う錬金術」(総合 後 7:30～8:43 中国ブロック)を見た。１本目は島根県邑南町を取り上げて毎年１％ずつ移住させる「移住１％戦略」や、半分は農業をしながら半分は別の仕事をする「半農半Ｘ」という働き方で収入を確保する取り組みなどが紹介されていて興味深かった。２本目は南米ボリビアのウユニ塩湖と同じような景色の写真が撮れることで、ＳＮＳで有名になった“鳥取のウユニ塩湖”や、鳥取県の恋山形駅の駅舎をピンク一色にして集客し、滞在時間を６０分以上に伸ばすことで観光客にお

金を使ってもらう仕組みを作るという取り組みを紹介していた。せっかく観光客が来ても、そこでゴミを捨てるだけでは地元には負担にしかならないという専門家のコメントがとても心に残った。

（ＮＨＫ側）

平成２６年に日本創成会議が「消滅可能性都市」を発表したが、中国地方の多くの自治体は2040年までに消滅する可能性があるとされた。調べてみると、島根県邑南町は人口１万人以上の自治体の中で３０代の女性の増加率が一番高いことや、鳥取県の駅や鳥取砂丘の“ウユニ塩湖”のように地元の自然を生かすことで経済的に潤う地域が多くあることが分かった。「ふるさとの逆襲」ではこうした事例を広く知ってほしいと考えて、シリーズで制作した。今回は人口減少とカネの問題を取り上げたが、来年３月には「ふるさとの逆襲」の１本目と２本目の反響も踏まえ、さらに掘り下げて３本目を制作したい。平成２６年に日本創成会議が「消滅可能性都市」を発表したが、中国地方の多くの自治体は2040年までに消滅する可能性があるとされた。調べてみると、島根県邑南町は人口１万人以上の自治体の中で３０代の女性の増加率が一番高いことや、鳥取県の駅や鳥取砂丘の“ウユニ塩湖”のように地元の自然を生かすことで経済的に潤う地域が多くあることが分かった。「ふるさとの逆襲」ではこうした事例を広く知ってほしいと考えて、シリーズで制作した。今回は人口減少とカネの問題を取り上げたが、来年３月には「ふるさとの逆襲」の１本目と２本目の反響も踏まえ、さらに掘り下げて３本目を制作したい。

○　１１月１７日(金)フェイス「廃線を乗り越えていけ～三江線沿線 ふるさとを守る男～」を見た。地域の衰退を食い止めようとしている森田一平さんを追っていた。森田さんはＪＲ三江線の宇津井駅にライトアップを施したり駅の近くに民家を借りて宿泊施設にしたりするなど、興味深い取り組みをしていた。三江線の廃線後は、跡地の一部区間を利用してトロッコ列車を走らせる企画を立てていたが、実現は難しそうだった。この番組はいろいろな疑問やヒントを投げかけていて、町作りの参考になった。１１月１７日(金)フェイス「廃線を乗り越えていけ～三江線沿線 ふるさとを守る男～」を見た。地域の衰退を食い止めようとしている森田一平さんを追っていた。森田さんはＪＲ三江線の宇津井駅にライトアップを施したり駅の近くに民家を借りて宿泊施設にしたりするなど、興味深い取り組みをしていた。三江線の廃線後は、跡地の

一部区間を利用してトロッコ列車を走らせる企画を立てていたが、実現は難しそうだった。この番組はいろいろな疑問やヒントを投げかけていて、町作りの参考になった。

（ＮＨＫ側）

三江線廃止後も沿線地域がどう活性化に取り組みを続けているかといった部分については、継続して追いかけていきたい。

○　１１月２４日(金)フェイス「空の旅が変わる！？瀬戸内発 航空ビジネス最前線」を見た。地方空港の未来のあり方や小型機を導入することの可能性を考え、そのメリットとデメリットを提示していた。この番組で地方空港にも新たなビジネスが始まっていることを知った。今回飛行機に詳しいお笑いコンビのココリコ・遠藤章造さんが、実際に神戸空港から高松空港に小型機に乗ってリポートしていたので、親近感が沸いた。一方で小型航空機のチャーターするためには高額な入会金が必要で利用できる人は限定されることが分かり、気持ちがしぼんでしまった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、日本の各地にある地方空港を有効に活用し、地域活性化のきっかけにしたいと考えて制作した。指摘のとおり、小型機の貸し切りサービスを利用するためには法人で 1,500 万円、個人で 1,000 万円という高額な入会金が必要ということも紹介したが、小型機の航空ビジネスについて考えるための材料の一つとして伝えた。

○　１２月１７日(日)「ひるまえ直送便スペシャル 北岡三千男がたどるトラベジ」～Ｔｒａｄｉｔｉｏｎａｌ Ｖｅｇｅｔａｂｌｅｓ～(総合 後 1:05～1:48 中国ブロック)を見た。料理人の北岡三千男さんが伝統野菜“トラベジ”の産地を訪ねる番組で、地域固有の品種を守っている生産者の姿を通じて、伝統野菜の魅力を紹介していた。「ひるまえ直送便」は平日の午前 11 時 30 分から中国地方に向けて生放送をしているが、この時間帯にはテレビを見ることができない人もいる。毎日番組を制作する中で、たくさん取材をして情報を蓄積していると思うので、このように再構成した番組を放送してもらってありがたかった。

（ＮＨＫ側）

我々放送の送り手としては、ニュースや情報番組で放送した内容は視聴者の皆さんに届いていると考えがちだが、すべての視聴者が番組

を見ているわけではないので、いったんせき止めて別の番組として放送することも有効かもしれない。毎日の番組で放送している内容でも、別の時間帯で伝えたり情報を蓄積して放送したりすることで、さらに多くの視聴者にも見てもらうことができ、内容に厚みが出ることもある。新年度についても平日の午後6時10分から各県向けにからニュース情報番組を放送するが、その中で伝えた項目をさらに深掘りして、金曜午後7時30分からの番組や特集番組などで取り上げるということもやっていきたい。

○　「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」では、「ひるまえ直送便」や「ふるさと逆襲」で伝えている中から島根県に関係する部分を改めて放送している。「フェイス」は、毎週金曜の午後7時30分から放送し翌日土曜の午前10時55分から再放送をしている。地域にとって有益な番組が放送される場合には、その番組を見るように知人と情報を共有しているが、翌日の再放送では周知が間に合わず、その番組を見ることは難しい。本放送と再放送の間を意識的に空けることで、いわば「再放送を武器」にして、さらに多くに人に見てもらうことができるのではないか。ぜひご検討いただきたい。

（ＮＨＫ側）

頂いた再放送に関する意見については、今後番組を編成するうえで、参考にしたい。ただテーマによっては“古くなってしまう情報”もあることから、番組の内容なども考慮しつつ効果的な編成を探りたい。

○　１２月１５日(金)「情報維新！やまぐち」を見た。長門市で日ロ首脳会談が行われてから、地域や地元経済に表れた影響について伝えていた。特にインバウンドに関しては長門地方がよくなったということだったが、長門だけではなく山口県全体を取材してほしかった。昨年開催された伊勢志摩サミットを取材・比較して、地域をよくしていくための具体的な提言をしてもよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

今回の「情報維新！やまぐち」では、日ロ首脳会談から１年を経て、地元にはどのような影響や変化が表れているかということを伝えた。頂いた意見のように、長門だけではなく山口県全体の経済にどういった影響があったのかという点については、文化交流の側面や住民の視点などを含めて注視していきたい。

○　１２月１５日(金)ＹＡＭＡＧＵＴＩＣスペシャル「ＣＡＴＶ大集合！ これが故里の底力」(総合 後7:30～8:43 山口県域)を見た。山口県内の８局のケーブルテレビが集まって「わが町の元気人」をテーマに制作したＶＴＲをプレゼンするという内容で、ケーブルテレビとＮＨＫが一緒になって番組を制作していたことが新鮮だった。心に残ったのは、移住者に好きになってもらう地域であることや地縁がない人も受け入れる下地を地域で作っておくこと、さらにその地域で完結するのではなく地域を越えて起業家を育てることが大事だというという３つの意見で、いずれも共感できる内容だった。この番組には、司会とゲストとケーブルテレビのプレゼンターが出ていたが、さらに活発な意見交換ができるようにスタジオの配置をもう少し検討してほしかった。ケーブルテレビのプレゼンが終わって、番組もあっさりと終わってしまったが、そのあとに議論が展開するような取材やＶＴＲがあればさらによくなったのではないか。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫもケーブルテレビも、共に地域を盛り上げていくという点では同じ役目を担っていると考えている。頂いたコメントの３つの視点については、制作現場とも共有して今後の番組制作にも生かしていきたい。スタジオの配置については、都合により今回は外部のスタジオを借用して番組を収録したが、勝手がうまくいかなかったのかもしれない。番組の展開に関しては、ケーブルテレビのプレゼンのあとに意見交換をする時間をもっと割くことができれば、番組の内容により深みが生まれたかもしれない。頂いた意見については、持ち帰って検討したい。

○　１１月１７日(金)とっとりスペシャル「復興の希望を拳に込めて～地震から１年 倉吉出身プロボクサーの挑戦～」を見た。日本ライト級チャンピオン・西谷和宏選手が、鳥取県中部地震から１年となる１０月２２日に、日本王者になって初の試合を鳥取県倉吉市で行い、傷痕が残る故郷を元気づける番組だった。地震の心労が原因で夫を亡くした女性や収穫直前の梨が全滅した農家の男性の話などがあって気持ちが重くなったが、西谷選手がタイの選手に勝って地元に活力を与えてくれたことがよかった。ＢＧＭに使われていた長渕剛さんの曲も西谷選手が戦う姿や地元の人たちが災害に直面したシーンにマッチして感動した。地元にとって震災後に元気をもらえる番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は入局２年目のディレクターが制作した。西谷選手に出会って西谷さんからパワーをもらい、被災した故郷を自分の力で支えたいという西谷選手の思いが伝わったのではないか。試合を見に行けなかった人たちや鳥取県中部の人たちにもエネルギーが伝わったのであればよかったと思う。

○　私はこの番組を見て西谷選手がライト級チャンピオンであることを知った。試合当日に向けて期待が高まっていく様子をテンポよく追っていた。鳥取県中部地震の発生後、支援する人々や家族の支え、復興への願いが込められて、番組の構成もよかったので最後まで見た。一方で西谷選手が試合に勝つことで、震災を乗り越え頑張ろうという子どもたちの描写が少なかった。相手のタイの選手に戦意があまり見られず、第２ラウンドＴＫＯで勝ったが、観客もこんな早く終わってしまったという雰囲気になったのが残念だった。

（ＮＨＫ側）

凱旋（がいせん）試合の対戦内容については指摘のとおりかもしれない。今回、西谷選手はリングに立っている姿を地元の人に見てもらいたいという思いで試合に臨んだ。番組では試合当日まで彼に密着したが、彼の地元への思いが伝わったのであればよかったと思う。

○　１１月２３日(木)安室奈美恵「告白」(総合 後 10:00～10:59)を見た。デビュー当時の映像があったことに感心した。過去に自分が歌っている映像を見てインタビューに答えている安室さんの姿もあり、当時よく聞いていた音楽を思い出して懐かしかった。結婚・休業・出産を経て「紅白歌合戦」に復活を果たしたときの自身の映像を振り返って涙を流すシーンはとても印象的だった。歌手の活動に区切りを付ける安室さんの考えがよく描かれていた。

○　私もこの番組を見た。この番組では結婚や出産といった私生活についてはあまり描かれなかったが、自分の納得できなかったという歌手としての気持ちを正直に話していたのが印象的だった。安室さんは有名になって仕事も順調だと受け止めていたが、相談する人がいなくて孤独だったというコメントに共感した。同世代の女性だけではなく多くの人たちも、彼女が活躍した時代を振り返ることができたのではないか。

（ＮＨＫ側）

この番組では、安室さんが思春期の息子を持った母親であることも描いていた。歌手を一時休業してから悩みながらステージに復活したことや今回の引退発表のいきさつなど、彼女のターニングポイントとなる場面をよく追っていた。

○　１２月１７日(日)ＮＨＫスペシャル「激変する世界ビジネス　“脱炭素革命”の衝撃」を見た。地球温暖化についてどういった問題があり、今世界中で何が起きているかを分かりやすく伝えていた。今後は、日本における自動車の二酸化炭素の排出問題や再生エネルギーの普及を妨げている電力会社の問題、さらに東日本大震災で原発が稼働を停止して、発電不足を火力発電でまかなうことになった影響なども掘り下げる番組をぜひ作っていただきたい。

（ＮＨＫ側）

自動車の排出ガスの問題については、中国地方にも自動車メーカーや関連企業があるので、地域放送局の視点から引き続き取材していきたい。

○　１２月３日(日)に急きょ放送されたＮＨＫスペシャル「皇位継承へ　素顔の“新天皇”」を見た。皇室の現状をはじめとして、現在問題になっている天皇陛下の退位や新しい天皇についてよく知らないということを改めて実感した。皇室の報道についてはいろいろ難しい部分もあるかもしれないが、今後も取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

１２月３日（日）「ＮＨＫスペシャル」は内容を変更して放送した。これは１２月１日(金)に皇室会議が開かれ、現在の天皇陛下が退位される日程が「２０１９年４月３０日」に決まったことや、８日(金)には閣議決定されたことなど、天皇陛下の退位については国民の関心が高かったことから、当初予定していた「人体・第３週」を差し替えて放送した。年号が変わることは国民の生活に直結することから、これからも伝えていきたい。

○　１２月１４日(木)クローズアップ現代＋「アラフォー・クライシス」を見た。どの

世代も月収が軒並み増加しているのにいわゆる“アラフォー”の世代の給与だけがダウンし、４０代前半では５年前に比べて２万円以上減少していることに驚くとともに、この世代は今も自信をなくしている人が多いことを知った。結婚している人には、女性はいずれ結婚して男性に養ってほしいという思いがあるかもしれないが、どのように子育てをしているのか、またその考え方についても子どもに影響はないのかといったことが気になった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、“就職氷河期”に就職した現在のアラフォーの世代を取り上げていた。就職したタイミングが大きく影響し現在も収入が低く結婚もままならないという実態や、生計を頼ってきた親世代が高齢化し、共倒れの危機はあることを伝えていた。

○　１２月２０日（水）ファミリーヒストリー「桂歌丸～遊郭に生まれて 女傑と呼ばれた祖母～」を見たが、歌丸さんが生まれ育った横浜の遊郭の話題が出ていた。この番組を家族と一緒に見ていて「遊郭とは何か」と尋ねられてうまく説明ができなかったが、日本の歴史をひもとくきっかけとしてはいい番組だと感じた。登場人物の先祖を通じて、当時の様子や歴史のあり方を知るという意味でも面白い番組だ。今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

「ファミリーヒストリー」は、各界で活躍する人々の父母や先祖がいかに生き抜いてきたかを振り返りながら、当時の時代背景や自分の先祖の時代も丹念に取材している。現在の活動につながるエピソードも丁寧に伝えているので、今後もご覧いただきたい。

○　「ひるブラ」は、限られた時間にもかかわらず、昼の時間帯に多くの内容を凝縮して伝え、日本各地の様子や人の温かさが感じられるのでよく見ている。１１月２１日（火）と２２日（水）は鳥取県からの中継だった。２１日（火）の「日本海の恵みを“おすそわけ”～鳥取 岩美町～」では、タレントの照英さんが冒頭で鳥取の松葉ガニを紹介して、ゆでガニ・カニみそ・カニのみそ汁をおいしそうに食べていた。そのあとカレイやハタハタなどをいろいろと紹介していた。放送した時間は松葉ガニよりずっと長かった。松葉ガニを紹介したのであれば、ぜひ「焼きガニ」を紹介してほしかった。最後は日本海の雄大な景色が映し出されたが、せっかく海岸に地元の人たちが集まっ

ていたので、ドローンを飛ばして皆さんを映すこともできたのではないか。２２日(水)は「とろ～り甘い“幻の高級柿”～鳥取 八頭町～」と題して鳥取県八頭町の「花御所柿」を紹介していた。生産量が少なく全国でも貴重で、東京では１個 1,300 円の値が付くことや、おいしい柿の見分け方などを分かりやすく伝えていた。変わった食べ方として「焼き柿」や「柿刺し」を紹介し、照英さんはおいしいと言っていたが、やや無理があるような印象を受けた。番組の後半では、「酢鹿の花御所柿あえ」という中華料理の酢豚の豚肉を鹿肉に代えて柿を加えたジビエ料理を紹介し、生産者に食べてもらう場面があった。食べてから少々間があって「おいしい」と言っていたので、本当においしいかったのか疑問に感じた。

（ＮＨＫ側）

２１日（火）の「ひるブラ」は、鳥取県の名物はカニだけではないことを知ってもらいたいと考えて制作した。この地域には“わけまえ”という習慣が残り、海の恵みを互いに分け合う昔ながらのコミュニケーションも紹介した。指摘のあった「焼きガニ」については別の機会に紹介したいと考えている。２２日（水）に紹介した柿を使った料理については、当日の朝から地元の皆さんに協力していただいて準備したものだ。今後も生放送の特長を生かし、さらに臨場感を伝えるように努めていきたい。

○　１２月９日(土)バナナ♪ゼロミュージック「大忘年会ＳＰ」を見た。過去に放送されたはいだしょうこさんの「お絵かきクイズ」や「きょうの料理」とコラボした料理研究家・土井善晴さんとの「食レポソング」、さらに司会を務める川田裕美さんのシャッフルダンスなどＮＨＫならではの映像があり、１年の総集編で見どころが満載だった。最後に、ゲストの小野リサさんのライブで披露した「ご当地ソングクイズ」もあって、ボサノバ界の一流ミュージシャンとのすばらしい演奏を聴くことができ、スタジオの熱気が伝わってきた。とてもおもしろい番組で永久保存版にしたいと思った。

○　１１月１９日(日)「俳句王国がゆく」は、島根県川本町で収録した番組で、地域の人と俳句を通じて楽しんでいる様子をよく伝えていた。驚いたのは出演者がチームに分かれて戦う「ご当地俳句バトル」では、地元の景勝地や名物料理をテーマに新しい切り口で俳句を楽しんでいた。俳句のテーマには、来年３月に廃止されるＪＲ三江線も挙げられていて、川本町を全国に知ってもらえる絶好の機会だった。俳句になじみがなくても見てもらうための工夫がされていた。この番組は公開収録で事前に観覧者

を募集しているが、応募ができなかった人や抽選に漏れてしまった人にも楽しんでもらえるような臨場感のある演出があればもっとよいと感じた。

（ＮＨＫ側）

「俳句王国」は、日本各地を紹介しながら俳句の楽しさを詰め込んだ知的エンターテインメント番組だ。Ｅテレで月に１回放送している番組でやや認知度が低いかもしれないが、川本町で収録するにあたっては、事前にホームページや島根県向けの放送を含めて観覧の募集を行った。番組を見てもらうための工夫や観覧募集の方法についても、今後検討していきたい。

○　１２月３日(日)ＢＳ１スペシャル「ゴジラを進化させよ！～ニッポン・アニメ　世界への挑戦～」を見て、日本のアニメ産業が中国などに追い上げられて知名度が落ち、日本産と認識されない現実があることを知った。ゴジラを知らないアニメファン向けの作品を作るという高いハードルが設けられていた。具体的にはゴジラの顔を長くすることで、オオカミに似た容姿にし、特撮とは異なる怪獣というよりも神や神社の御神木のイメージに仕立てていたことなどが分かった。ただしなぜゴジラでアニメを作るのかという部分がインタビューにはなく、最後まで分からなかった。続編を期待したい。

（ＮＨＫ側）

この番組では、なぜゴジラをアニメにしようとしたかという点について最後まで説明はなかったが、世界から評価されたアニメでこれまでと違った描き方をすることをよく伝えていた。

○　今、なぜメディアは大相撲のニュースを何度も繰り返して伝えているのか疑問を感じる。アメリカのトランプ大統領がエルサレムをイスラエルの首都として認めると発言してアラブ諸国が強く反発したり、日本では米軍の岩国基地が増強されたりしていることは、ほとんど知らされていない。日本の国難ともいえる事態が続発し、国際情勢が緊迫していることを取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

ニュースのオーダーに関する指摘については、検討課題として受け止め、東京の担当部局に伝えたい。

○　非政府組織の「核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）」がノーベル平和賞を授賞した。広島出身のサーロー節子さんが授賞式でスピーチを行ったが、一部分しか伝えられなかったのが残念だった。

（ＮＨＫ側）

サーロー節子さんの演説については、全文を伝えられなかったが、被爆地・広島にある放送局として、引き続き番組やニュースで原爆の恐ろしさや平和の大切さを伝えていきたい。

○　１２月１３日に広島高裁が四国電力伊方原子力発電所３号機の運転を差し止める決定をしたが、社会的に影響のある決定だと受け止めている。今後も情報を伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

広島高裁が四国電力伊方原子力発電所の仮処分決定を出したニュースについては、今後も動向を注視していきたい。

○　１２月１３日（水）に沖縄県普天間飛行場の近くにある宜野湾市普天間第二小学校のグラウンドに、米軍の大型ヘリコプターから窓が落下したニュースについて、正午の「ニュース」と「ニュースウオッチ９」で丁寧に伝えていた。２１日（木）正午のニュースでは、沖縄県議会が抗議決議を可決したことを伝えていて、好感を持った。

（ＮＨＫ側）

１２月２１日（木）「おはよう日本」では、この問題について時間を割き、現地から中継を出して分厚く伝えていた。北朝鮮や中国など東アジアの安全保障情勢が緊迫化し、それに対応するために夜間の訓練が増えて海兵隊に過度な負担がかかっていることが原因ではないかという専門家の分析を交えてリポートしていた。2003 年にイラク戦争が始まり、翌年に沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落した事故と状況に酷似していることも指摘していた。中国地方には山口県に米軍岩国基地があることから、我々もきめ細かな取材をしていきたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年１１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１２月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	安井　　弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
委　員	伊藤　康丈	（イワミノチカラ　代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」相談役）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古矢　博通	（公益財団法人 倉敷スポーツ公園理事長）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１０月２０日(金)フェイス「９２歳の旋律～超人ピアニスト ルース・スレンチェンスカ～」を見た。スレンチェンスカさんの激動の人生や９２歳で高齢ながらとてもチャーミングな表情が印象的だった。番組の中で彼女とのインタビューがあったが、「たしかに年をとる でも老いこそ成長の始まり どう成長するかその道筋は選べない 人生がそれを決める」という受け答えがあって心が動かされた。彼女がみずみずしい心を持っているからこそ出てくることばだと、しみじみと感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、以前、ニュースの企画でスレンチェンスカさんが岡山でコンサートを開いたことを取り上げたことをきっかけにさらに取材を重ねて制作したものだ。彼女の一つ一つのことばが心に届いたのではないか。

○　私もこの番組を見た。スレンチェンスカさんが、岡山県真庭市にある醍醐桜の前でピアノを演奏している場面がきれいで目を引かれた。スレンチェンスカさんの激動の人生を追いながら、同じ曲で若いときと現在のピアノの演奏をして映像と音で比較していたが、若いときに比べると今のほうがやさしく包み込むような音色になっていた。亡くなった夫とのエピソードを話しているときにはチャーミングな表情で、印象的だった。スレンチェンスカさんの演奏をもっと聞いてみたくなるほどいい番組だった。

（ＮＨＫ側）

スレンチェンスカさんのインタビューの場面などは今回撮影したが、醍醐桜の映像はアーカイブスの映像を使用した。彼女が若いころに演奏していたときの姿やピアノの音、過去の写真なども入れて、分かりやすく制作していた。

○　「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」をいつも録画して見ている。この番組を見て、地域を活性化させるためのイベントを仕掛ける時の参考にしている。松江局では三江線に焦点を当てているが、私自身身近な公共交通機関が廃止されることを複雑な思いで見ている。三江線廃止後も沿線の風景や人々の暮らしなどの映像が残るように若いディレクターたちが一生懸命取材していて、とてもありがたく感じている。

（ＮＨＫ側）

今年度は三江線を大きなテーマにしているが、島根県各地でさまざまな活動が行われているので、地域の活性化につながるような話題を放送していきたい。三江線廃止は必ずしも地域の終わりを意味するのではないと考えている。地域がこれからどう変わっていくかという点についても、三江線だけではなく地域の活動も含め、継続して追いかけていく。

○　「いちおしＮＥＷＳとっとり」のキャスターを務めている近藤泰郎アナウンサーはいつも分かりやすくニュースを伝えてくれるので、引き込まれて見ている。１０月２６日(木)の放送では、大相撲鳥取場所の秋の巡業や鳥取県が開発した新品種の柿の話題、日本一のご当地バーガーを決める「とっとりバーガーフェスタ」の様子のほか、航空自衛隊美保基地に大型輸送ヘリコプターが配備されたニュースについては、導入の経緯や地元自治体の動きなどを分かりやすく説明していた。

○　私も「いちおしＮＥＷＳとっとり」を見ている。近藤アナウンサーの気配りがよく、癒やされる気分になる。一日の終わりにふさわしい番組になっている。地元ではケーブルテレビが映らないので、「ＣＡＴＶだより」のコーナーを楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

鳥取県と島根県は山陰地方にあって互いに関心が高く、民放では２県に対して「電波相互乗り入れ」が行われ、同じ内容の番組を放送している。ＮＨＫでは午後６時１０分から７時までの時間はそれぞれの県に向けて別の番組を放送し、鳥取県では「いちおしＮＥＷＳとっとり」を放送している。これからも地域に根づいた放送局として鳥取県の視聴者の皆さんに頼りにしてもらえるよう、しっかり伝えていきたい。

○　ＮＨＫのホームページには「ＮＨＫ地域づくりアーカイブス」というサイトがあって、日本各地の優れた地域づくりの取り組みを映像で紹介している。内容が充実していて、とても参考になる。よい番組づくりをしていると改めて感じた。

（ＮＨＫ側）

中国地方では毎週金曜日に放送している「フェイス」をはじめ、１２月に放送を予定している新番組「ふるさとの逆襲」でも地域づくりを取り上げていく。「地域づくり」は中国地方の各放送局でも掲げている重要なテーマで、引き続きこの課題に焦点を当てて番組を制作していきたい。

○　１１月１２日(日)「どーも、ＮＨＫ」を見た。９月１８日(月)から２１日(木)にかけてラジオ第１で「旅ラジ！」を島根県内の三江線沿線から生放送し、その舞台裏の

様子を分かりやすく紹介していた。中継をする地域で取材をして、その場から生放送することは、放送の制作現場が一時的にその地域にやってくるということで、当日現地はとても元気になって盛り上がっていた。「旅ラジ！」は全国放送で、山形県を旅行していた友人からこの番組について電話で問い合わせがあったので、放送の持つ力が大きいことが分かった。

○　１２月１０日(日)に非政府組織の「核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）」がノーベル平和賞を授賞することが決まった。この授賞式で、カナダ・トロント市在住で広島出身の被爆者、サーロー節子さんが演説をするが、広島市民でもＩＣＡＮと広島がどのように結びついているかということを知らない人が多い。なぜならＩＣＡＮと被爆者、若い人たちが一緒になって核兵器禁止条約交渉会議に向けて運動したことが伝えられていないからだ。このニュースは、ＮＨＫでも新聞でも大きく報道されたが、バラバラに伝えられている印象で、核兵器反対の動きが一つにつながっていることを理解することは難しい気がする。ノーベル平和賞の授賞式までに、この一連の動きを視聴者に届けてほしい。

（ＮＨＫ側）

ＩＣＡＮがノーベル平和賞に選ばれたことについては、ニュースばかりではなく、例えばＥテレの１０月１９日(木)「ニュースで英会話」などでも取り上げている。ただ伝え方がこま切れになっているという意見はそのとおりかもしれない。今後も検討していきたい。

（ＮＨＫ側）

広島局で原爆や被爆の問題を追い続けている記者は、今回の決定は遠い世界の出来事ではなく、身近な自分たちのニュースと受け止めて取材をしている。今後もできる限りの取材を続けたい。

（ＮＨＫ側）

ニュースのグループだけではなく、番組制作のセクションでも、サーロー節子さんの活動を含めて、ＩＣＡＮと被爆者の結びつきについて取材を始めている。具体的には改めて紹介したい。

○　１１月３日(金)に再放送されたＮＨＫスペシャル「ばっちゃん～子どもたちが立ち直る居場所～」を見た。はじめのうちは、非行に走った少年を番組に映し出してよい

のか心配したが、“ばっちゃん”こと、元保護司の中本忠子さんが寄り添ってくれることが分かり、どんなことがあっても少年たちを守ってくれるという中本さんの懐の深さがディレクターにも通じて、そのまま放送できたのだと思う。３人の女性が一緒に食事作りを手伝っている場面があったが、中本さんのたいへんな活動を知れば知るほど、彼女たちが協力する理由を知りたくなった。中本さんは子どもに食事をふるまうことでよく知られているが、食事はひとつのツールにすぎず、かけがえのない優しさと声をかけることが大切だということがよく分かった。

（ＮＨＫ側）

現在では、中本さんの自宅にやってくる少年が増えて家に入り切らなくなったためにほかの場所を借りて活動を続けている。それを見かねた３人の女性が中本さんを手伝うことになったようだ。中本さんの元にやってくるのは、以前は地元の子どもが多かったが、この番組で中本さんを知って、ほかの地域から電車でやってきたり、外国人も来たりして、問題は今も解決していないようだった。今後も中本さんを取材していきたいと考えている。

○　１０月２２日(日)うまいッ！「辛み強く香り豊か しょうが～鳥取県鳥取市～」を見た。鳥取産のショウガを材料にして、ショウガがたくさん入ったラーメン、ショウガの天ぷら、ショウガのせんべい、ショウガのつくだ煮などが作られていた。過疎に悩んでいる鳥取県にはこのようないろいろな特産物が必要なことが分かり、とてもありがたかった。

（ＮＨＫ側）

今回の「うまいッ！」では鳥取市気高町のショウガを紹介した。鳥取県にはいろいろな名産品があるが、あまりよく知られていない。例えば鳥取和牛は全国の和牛品評会で日本一になったが、これもあまり知られていない。鳥取県は第一次産業が中心ということもあり、今後もさまざまな産物や名所などを全国に向けて紹介していきたい。

○　１１月３日(金)ドキュメント７２時間「スペイン・カナリア諸島 マグロ漁師の短いバカンス」を見た。日本船籍のマグロ船が修理や給油のためにスペイン・カナリア諸島に寄港した３日間を描いていた。この番組は静かに流れるような構成で大きく感動することはないが、飾ることのないスローなテンポに引きつけられて飽きることなく

見ているが、そのたびに胸があたたかくなる。番組の主題歌が気になったので歌詞を確認してみたが、松崎ナオさんの「川べりの家」という曲の中に「あたたかい場所へ行こうよ」というフレーズが出てくる。まるでこの番組のために作ったのかと思うほどだった。これからも楽しみにしている。

○　１１月３日(金)ららら♪クラシック「ドボルザークのチェロ協奏曲」を見た。この曲の誕生の背景にあったドボルザークと初恋の女性との交流などをよく説明していて、音楽番組でありながらドキュメンタリーのようで面白かった。チェロの楽器の下に“エンドピン”が付いたことで、ドボルザークの協奏曲の難しいフレーズが演奏できるようになったという、楽器の改良に関する説明も興味深かった。この番組を見て、個々のフレーズに耳をすまして注意深く聴くようになったので、クラシックの入門としてよかったと思う。この手法で、ジャズ音楽についても同じような番組を制作することができるのではないか。期待している。

○　１１月３日(金)「ゴッホは日本の夢を見た」(総合 後 10:05～後 10:53)を見た。ゴッホが描いたパリの町並みがとても美しく、すぐに行きたくなるほどだった。絵画にあまり興味がない人も引き込まれたのではないか。ゴッホは日本の浮世絵に引かれて660 枚を集めて模写をしたが、日本が自然にあふれて鮮やかで美しいと伝え聞いて日本に憧れていたことがよく分かった。番組の中で、ゴッホが「日本の大地を踏みしめることはありませんでした」というナレーションがあったが、その答えがないまま終わったのが気になった。

○　１１月３日(金)歴史秘話ヒストリア「沖ノ島～日本 はじまりの物語～」を見た。世界遺産に登録された沖ノ島が３部構成で分かりやすく説明されていた。

○　１１月５日(日)あの日 あのとき あの番組「よみがえる大伽藍～薬師寺 復興事業５０年～」を見た。薬師寺金堂の再建が始まった頃に、今も現役の棟りょうである小川三夫さんが当時の棟りょうの西岡常一さんに弟子入りしたが、そのころの映像が印象的だった。小川さんの弟子として２年前に坂井竜二さんが入門したが、最近になってようやくカンナをかけることが許されたという説明があって、現代の職人の教育方法を知った。以前薬師寺でコンサートを開いたことがあるという歌手の森山良子さんと薬師寺・執事長の加藤朝胤さん、司会を務める森田美由紀アナウンサーが、当時の映像を振り返りながら、森山さんが復元された食堂は音がよく響くということで発声練習をするという場面があった。アーカイブスの番組でありながら現在の薬師寺の様子

も見ることができてとてもよかった。

○　１０月１８日(水)世界で一番美しい瞬間(とき)１０ｍｉｎ．「春を祝う 喜びのとき ウズベキスタン・サマルカンド」(総合 前 9:45～9:55)を見た。昨年度までＢＳプレミアムで放送されていた５０分の番組をコンパクトに１０分にまとめた番組で、ナレーションがなく海の中のさんご礁などを淡々と映していて印象的だった。再放送を期待している。

○　１０月２１日(土)衆院選特集「党首奮戦～密着１２日間の熱戦～」(総合 後 9:00～後 10:10)を見たが、自民党と安倍総裁が出演している時間が突出して多いという印象を受けた。「日曜討論」は国会議員数によって各党の出演者数が変わることはないので、違和感を覚えた。

（ＮＨＫ側）

政治的な問題を扱う番組については、何をもって放送の中立を担保するかという点について、さまざまな考え方があると受け止めている。今後も検討していきたい。

○　１０月２６日(木)クローズアップ現代＋「お金が“タダ”でもらえる！？～世界が注目・ベーシックインカム」を見た。現在この番組は武田真一アナウンサーが担当しているが、これまでは国谷裕子さんがキャスターを務めるなど、必ずしもどういった職業の人がキャスターを務めるのか定まってはいないように見えた。キャスターの役割はどういったものなのか、どこまで自分の意見を伝えるのか、教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

「クローズアップ現代」は平成５年に放送を開始し平成２８年３月まで国谷裕子さんがキャスターを務めた。その後番組名を「クローズアップ現代＋」に変更し、複数の女性アナウンサーが交代制で担当することになった。今年度からは「ＮＨＫニュース７」で経験が豊富な武田アナウンサーがキャスターを務めている。番組キャスターの役割については、基本的には番組全般をつかさどって進行することだと受け止めている。アナウンサーがキャスターを務める場合も番組の制作過程から関わって、番組デスクやディレクターに相談したり、生放送では臨機応変に発言したりすることもあるが、いずれにせよ自分の意見を持って伝えている。武田アナウンサーは長年ニュースを担当して

きたこともあり、キャスターとしての見識は十分にあると考えている。

○　１０月２８日(土)ＥＴＶ特集「原爆と沈黙～長崎浦上の受難～」を見た。長崎市浦上地区は原爆投下・部落差別・カトリック信者の弾圧という３つの問題が重なった地域だが、近年重い口を開き始めた人たちへのインタビューを交えてよく掘り下げていた。ただ、全体的にテーマが大きくなって分かりにくくなってしまった。番組ではノンフィクション作家の高山文彦さんが出演して、解放同盟長崎県連合会初代委員長の磯本恒信さんが差別的な古地図について糾弾したことをきっかけに解放運動に立ち上がったという部分にも言及していたが、ディレクターの思いがうまく伝わらなかったのではないか。重要なエピソードが多く２時間の記録映画になるほどの内容だったので、その点は残念だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、ことし８月１２日に放送したものの再放送だ。長崎における原爆の重いテーマを取り上げた力作だったが、指摘のとおり多くの内容を盛り込み過ぎたように感じた。

○　１１月１日(水)ねほりんぱほりん「パパ活女子」を見た。今回は若い女性が年上の男性とデートをすることで小遣いをもらう活動を紹介していた。社会の裏側で、こういった社会現象があることを初めて知った。自分の家族のことを考えると複雑な気持ちになるが、現代社会の実情が分かったという点ではよい番組だった。この番組は、ＭＣを務めている山里亮太さんとＹＯＵさんが「訳ありのゲスト」のむちゃな行動に対してきちんと諭したり注意をしたりしているので好感がもてる。今回の「パパ活女子」でもそういった場面があって安心した。今後も期待している。

○　１０月７日(土)ラン×スマ～街の風になれ～「輝け私！ランメークでビューティーラン！」を見た。女性ランナーにとってメークは重要なポイントだが、走っても崩れないメークを伝授するという内容だったので、食い入るように見た。参考になったのは「ジャブジャブ」と名付けられたテクニックで、化粧後さらっとした化粧水をミスト状に多めに吹きかけてからとろみのある化粧水をつけるという方法だった。また走り始めてから汗が出てきた場合には、こすらずにリストバンドで押さえるという手法も知ることができて、とてもよかった。

○　１０月２３日(月)アナザーストーリーズ 運命の分岐点「引退　～長嶋茂雄のラスト

シーズン～」を見た。チームメイトや球団関係者、長嶋さんをよく知る人たちが出演して、チャンスに強いバッティングや鬼気迫る練習、引退試合の秘話などを紹介していた。印象的だったのは、当時に戻ったような出演者の表情が映っていたことで、心から長嶋さんを好きなことが分かった。長嶋さんの引退の場面についてはこれまで何度も放送されたが、この番組で改めて「わが巨人軍は永久に不滅です」というシーンを見て、目頭が熱くなった。

○　１１月８日(水)にっぽんトレッキング１００「日本海に浮かぶ秘境の島～隠岐諸島～」(ＢＳプレミアム 後 10:00～10:59)を見た。島根県民でもあまり行く機会がない隠岐諸島を紹介していた。この番組では、空撮を使って通常では見られない角度から見せてくれたので、隠岐諸島の大自然の迫力がよく伝わった。過疎の地域にはなかなか人に来てもらうことは難しいが、トレッキングという趣味を通じて地域のよさを放送してくれたことがうれしかった。ほかの地域についても、最新の映像技術を活用して番組を制作できれば、地域のよさがさらに伝わり、行ってみたいと思う人が増えるのではないか。今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

今回の「にっぽんトレッキング１００」は、島根県の隠岐諸島を紹介した。幅６０センチの切り立った岩のりょう線を、命綱を付けて渡る映像がありヒヤヒヤする場面もあったが、日本とは思えないような絶景もあって見応えのある紀行番組だった。

○　１１月１１日(土)ザ・プレミアム「史上最大の謎 チンギス・ハンの墓」～俳優・東出昌大 モンゴルの大地を行く～をタイトルに引かれて見た。モンゴル帝国は国が滅びると王の墓が荒らされることがあったが、遊牧民にとっては最大の屈辱だったために墓の場所を秘密にしたようだ。チンギス・ハンの墓が見つかるのかと、最後まで期待して見た。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　１０月２２日(日)奇跡のレッスン「挑戦！高校生版“コーラスライン”ミュージカル編」（ＢＳ１　後 9:00～9:50)を見た。将来の不安を持ち、夢を持っていても一歩を踏み出す勇気がない高校生たちが、厳しいレッスンをしていく中で変わっていく姿に引き込まれた。自分たちの悩みを共有して乗り越えていく発表会の場面は涙なしでは見られなかった。当日は、総合で衆議院選挙の開票速報を放送していたが、さらにＢＳ１でも画面で表示する必要があるのか疑問に感じた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年１０月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木）、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、１１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安井　　弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」相談役）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古矢　博通	（公益財団法人 倉敷スポーツ公園理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１０月６日（金）フェイス「戦場からきたアフィファ～アフガン 義足女性の１９日間～」を見た。地雷で右足をなくしたアフガニスタンの女性アフィファ・アミリさん（２４歳）と、彼女を支える島根県と広島県の人々との心温まる交流を描いていた。島根県大田市の会社で義足を直してもらい、帰国する前に広島平和記念資料館を見学して平和の尊さを訴えていたが、３０分の番組としてはやや物足りなかった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、アフィファさんが悲しみの中からどのように立ち直り、祖国に対して希望を持つかという部分に焦点を当て、来日中の過程や帰国後の状況についても紹介した。平和記念資料館でアフィファさんを案内していた通訳の男性が、アフガニスタンに行きアフィファさんと再会する予定があると聞いているので、追いかけていきたい。

○　私もこの番組を見た。１４年前に義足を作ってくれた人との再会の場面や、義足を直してもらった時のアフィファさんの表情は心からうれしそうだったが、「アフガニスタンに戻ってもいいことがあるとは思えない」という彼女の言葉が心に重く響いた。番組モニターの報告によれば、この番組を見た人は７０代や６０代が多く若い人が少ないようなので、もっと若い世代にも見てほしいと感じた。

（ＮＨＫ側）

アフィファさんは、現在もテロや襲撃が続くアフガニスタンから来日した。この番組を制作したディレクターは２０代の女性で、アフィファさんに寄り添いながら、３週間弱の日本滞在中に義足を直してもらったり平和記念資料館を訪ねたりするうちに、彼女に芽生えたさまざまな心境の変化や今後も希望を持って帰国してほしいという気持ちを、同じ女性の視点から伝えようとした。

○　アフィファさんはアフガニスタンに帰国しても希望が持てないという趣旨の話をしていたが、広島でも原爆で足を失った女性がいたという話を聞いて自分の境遇と重ね合わせて、希望が見えてきた。アフィファさんは「アフガニスタンに戻ってもいいことがあるとは思えない」と言っていたが、日本とアフガニスタンという国の違いがあっても、希望に焦点を当てて掘り下げることで、別の側面が見えてくるのではないか。次回はこういった精神的な部分も取り上げてほしい。

○　現在、アフガニスタン全土で外務省の海外安全情報で危険度が「レベル４」となっており、退避勧告が出ている。アフィファさんについては今後も継続して取り上げていくということだったが、身の安全を確保して取材してほしい。

（ＮＨＫ側）

アフィファさんは、今回、過去に義足を作ってもらった大田市のメーカーの配慮により来日した。今後もアフィファさんを追跡して取材することは困難な部分も多いが、検討してみたい。

○　９月２２日（金）庭は一幅の絵画である「足立美術館 世界一の庭の四季」（総合 後7:30～7:59 中国ブロック）を見た。８Ｋのカメラで撮影した映像がとてもきれいだったが、毎日早朝、庭園を丁寧に整備する様子など、裏方で働く人の努力もよく描かれていて、とても感動した。庭園の松が部分的に大きくなると、全体のバランスが悪くなってしまうので、成長に合わせて１本ずつ植え替えていくという、足立美術館ならではの細やかな尽力があることも分かった。足立美術館の日本庭園は世界的にも有名だが、その裏には見えない努力があることがよく分かった。今後もこういった秘話などを伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

「庭は一幅の絵画である」は、「ハイダイナミックレンジ合成」という技法を用いることで、これまでテレビではお伝えできなかった映像を撮ることができた。一般的に風景の映像については、最も明るい部分と最も暗い部分の比（ダイナミックレンジ）が広いが、一般的な撮影機材ではそれが狭くて捉えきれないために、一部が飛んだりつぶれたりしてそのまま表示することはできない。足立美術館の館内は暗く、その窓を額縁に見立てて明るい庭園をきれいに映すことはこれまでできなかったが、８Ｋのカメラを使うことでそれが可能になった。壁の中に額縁があって、その中に有名な“枯山水庭”や“白砂青松”を、四季折々のきれいな映像で映せるようになった。８Ｋの超高精細カメラの撮影では、準備に時間がかかったり、激しい動きがあるとうまく撮影できなかったりしたので、現地では試行錯誤をしながら撮影を行った。日本庭園の現場で働く人々の苦労やエピソードがきちんと伝わったのであればとてもうれしい。今後も８Ｋや４Ｋといった超高画質ならではの美しい映像で番組を制作し、さまざまな秘話なども紹介していきたい。

○　１０月６日（金）ＹＡＭＡＧＵＴＩＣ「ここでプロになりたい！～周南 大道理 まんが村の夏～」を見た。７人の漫画家の卵たちが、山口県周南市のイベントや祭りに積極的に参加したり、農作業や地域の草刈りをしたりしながら、築100年の古い空き家で共同生活している様子がよく描かれていた。地域の人たちとふれあうことで精神的にも健康的な生活を送っていた。漫画家の生活については、とかく都会の狭いアパートに万年床を敷き、カップラーメンを食べ終わった後の容器が転がり、電気スタンドの下で描いているというイメージがあるが、この番組では人間関係が密接で、地方のよさがよく描かれていた。最年長の切戸章平さんが漫画のコンテストに出品していたが、その結果が気になった。

（ＮＨＫ側）

「ＹＡＭＡＧＵＴＩＣ」は、地域のよさがしっかりと描かれていたと思う。地元の人から差し入れをもらい、漫画家の卵たちが畑を手伝うという相互関係を作りながら、ひたすら漫画を描き続けるうちに彼らの意識も確実に変わっていった。こういったことがＵターンやＩターンにつながってくれればいいと感じた。切戸さんが出品した漫画については、残念ながら落ちてしまったが、本人はまたやる気を出して頑張っているようだ。

○　この番組はテーマがとてもよく、おもしろかった。若い漫画家は漫画を描くだけでは食べていけないので、自分たちの労働力を提供して、その代わりに地元で採れた野菜を分けてもらって食費を安く浮かせていたが、それが彼らの生活のしかただと感じた。今ではパソコンで漫画を描くことができて、できあがった原稿をデータでやり取りできるので、日本のどこにいても漫画を描くことができることも分かった。とてもおもしろくて、将来につながるような番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、Ｅテレの「人生デザイン Ｕ－２９」という若者の悩みや不安、チャレンジする姿を紹介する番組を再編集したものだ。今回若者を受け入れてくれたのは高齢の人々だったが、彼らの生活にあまり踏み込むことがなく温かく迎えてくれた。山口県も人口現象と高齢化が問題になっているので、今回の題材をひとつのモデルケースとして、さまざまな地域の現状についても取材をしていきたい。

○　１０月１３日（金）@ｏｋａｙａｍａ「リアル 町のシンボル“お城”が消える！？」を見た。再建５０周年を迎えた岡山城の耐震性について考える番組だった。岡山城は戦争で焼失してコンクリートで再建したが、耐震性に問題があることが分かった。出演者も意外だという反応があって、市民の一般的な気持ちを代弁していたように感じた。再建したときに城のメンテナンスや次期の再建について十分に検討されていなかったことが分かってぼう然とした。番組には岡山城を管理している観光協会の人が出演していたが、責任感があまり見られず残念だった。岡山県では空き家が問題となっているので、城だけではなく一般的な住宅の再建についても改めて考えるよいきっかけになったのではないか。

（ＮＨＫ側）

岡山城の天守は、昭和３９年から４１年にかけて鉄筋コンクリートで再建されたが、全国にも同じような問題を抱えた城があると考えて、ほかの城も例に挙げて紹介した。耐震性の問題についてはいろいろな課題や影響があると思うので、今後、全国放送に向けて提案をしていきたい。

○　この番組は、タイトルにインパクトがあり非常に考えさせられる内容だった。岡山城は、明治時代に出されたいわゆる“廃城令”が適用されず、戦争の空襲で焼けてから２０年間は存在しなかったが、城は創建当時から同じ場所にあって岡山市のシンボルにもなっている。この城を残すことについては、市民のほとんどが賛成すると思うが、予算や財政を考えると全面的に建て替えることは難しい。耐震性の問題については、番組で取り上げたように耐震壁を作って当面の安全性を確保することが現実的で、本格的な再建については、財政状況を考えながら次の世代に引き継いでいくしかないと思う。

（ＮＨＫ側）

城の再建については、建築当時の資料が残っていないと再建が許されない。岡山城にはある程度の資料が残っているようだが、現在、城は街のシンボルになっているので、城の再建にあたっては財政面や城がなくなる影響なども検討しなければならない。この問題はなかなか難しいが、今後も継続的に取り上げていきたい。

○　１０月６日（金）とっとりスペシャル「人間（ひと）を撮る～幻の写真家 督太郎のまなざし～」を見た。元谷督太郎さんは、戦後、鳥取で庶民を撮り続けた写真家で、高い評価を受けながら写真集を出すことも個展を開くこともなく表舞台から姿を消した。忘れられかけていた鳥取のすばらしい写真家を掘り起こしてもらって、とてもうれしかった。

（ＮＨＫ側）

　この番組は、鳥取市内にある今は営業していない写真館の店先に飾られている魅力的な写真が年に何回か変わっていることを、鳥取局のディレクターが気が付いて取材を始めた。地元の人にとっては当たり前なことでも、改めて取材をすると、実はあまり知られていないものを掘り起こすことができる。こういうことも地域放送局の大切な務めのひとつだと受け止めている。今回は“幻の巨匠”と言われている元谷さんを取り上げたが、そういった役割を果たすことができたのではないか。

○　写真家の平木綾子さんの語りと詩人・漆原正雄さんの詩の朗読が印象的だった。元谷さんは私自身知らない写真家だったので、とても興味深かった。

○　午後６時台の「もぎたて！」では、「ランシオ」のコーナーに注目しているが、いつ放送されるのかがよく分からずに見逃したことがある。このコーナーをいつ放送しているのかを知りたかった。

（ＮＨＫ側）

　「もぎたて！」の中で伝えているコーナーは、曜日毎に放送のスケジュールを決めているが、その日に発生したニュースを放送したり、選挙について時間を割いて伝えたりするために、コーナーを入れ替える場合があることを理解していただきたい。それぞれのコーナーについては、「もぎ名山総集編」のようによりすぐったものを特集にして、金曜午後７時３０分の枠で放送しているので、これからも楽しみにしていただきたい。

○　１０月１日（日）ＮＨＫスペシャル「シリーズ 人体 神秘の巨大ネットワーク」第１集「“腎臓”が寿命を決める」を見た。ウエブサイトも興味深く作られているので、今後も楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「シリーズ 人体」は、最先端の医学について、タモリさんと京都大学ｉＰＳ細胞研究所の山中伸弥教授が出演して分かりやすく伝えていた。１回目は、腎臓が体中に情報を発信しながら、さまざまな臓器の働きをコントロールするというメカニズムを分かりやすく説明していた。今後もいろいろな臓器を取り上げていくが、最新の映像を用いたり、ＮＨＫのサイトと連動するなどじっくり見てもらえるように工夫をしたりしているので、楽しみにしていただきたい。

○　９月２４日（日）ダーウィンが来た！生きもの新伝説「スギが大好き！ニホンモモンガ 超かわいい！謎の素顔に迫る」を見た。「超かわいい」というタイトルのとおり、かわいいモモンガが夜になって巣から出てくるシーンをうまく捉えていた。とかく嫌われがちなスギの花粉がモモンガのごちそうになることが意外だった。この番組は弱肉強食の野生の世界に生きる動物を取り上げることが多く、負傷したり死んでしまったりするシーンがあるが、エンディングの音楽がとてもよく、ほっとした気持ちになる。番組を見たときの感動が集約されているように感じた。

（ＮＨＫ側）

今回の「ダーウィンが来た！生きもの新伝説」では、鳥取県のスギ林に生きるモモンガを紹介した。地域のみなさんがスギ林を大切に手入れしているからこそ、さまざまな動物も生きていることが分かった。今後もそういった自然環境も取り上げていきたい。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を半年間にわたって見た。沢村一樹さんがふんするみね子の父親・実が、記憶喪失のままで終わってしまうのかと心配していたが、最終回のすずふり亭の場面で、谷田部家の重箱を預けていたことを思い出すシーンがあって驚くとともに、安ど感でいっぱいになった。とてもいいドラマだった。

○　１０月８日（日）「カズオ・イシグロ 文学白熱教室」（Ｅテレ 後 11:00～11:54）を見た。カズオ・イシグロさんのノーベル文学賞受賞決定後のタイムリーな放送だった。人間の記憶はあいまいで、時の権力者によって書き換えられたり、ねつ造されたりすることがあるということを、イシグロ作品を通底するテーマで伝えていて、彼の作風と人柄がよく分かった。そういった思想は「日の名残り」「忘れられた巨人」という小説に表れていることもよく分かった。イシグロさんは受賞後の取材にも自宅に取材者を招いており、番組でも率直に若者たちの質問に対応している様子が好印象だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は平成２７年７月にＥテレで放送したもので、作家のカズオ・イシグロさんのノーベル文学賞受賞が決定したことを受けて、急きょ１０月８日に特別アンコールで放送した。イシグロさんはとてもフレンドリーで、自分の文学を自分の言葉で分かりやすく紹介していたことが印象的だった。

○　７月３０日（日）ＢＳ１スペシャル「ＭＡＳＡと奇跡の合唱団」（ＢＳ１ 後 7:00～7:49）を見た。応募者が 260 人にものぼるという人気のアメリカの合唱団の話だったが、歌のうまさよりも観客を魅了できるかという点に基準をおいて団員を選ぶという考え方がすばらしかった。“ＭＡＳＡ”と慕われている音楽プロデューサーの福田真史さんは、子どもたちと面談している時も不安がなくなるように向き合って、子どもたちも彼を信頼している雰囲気が伝わった。すばらしい指導者と子どもたちとの出会いがよく描かれていた。

○　１０月１６日（月）エアレース世界選手権２０１７「最終戦 ｉｎ インディアナポリス」（ＢＳ１ 前 2:00～5:15）を見た。当初は１１月５日（日）に放送を予定していたが、第７戦までを終えて３回優勝した日本の室屋義秀選手が年間ランキング２位となり、悲願の年間の総合優勝が見えてきたことで、急きょ予定を繰り上げて、アメリカ・インディアナポリスでの競技を生中継で伝えていた。あまり取り上げられることがない競技を放送できるのは、ＮＨＫが複数のチャンネルを持っているからだと実感した。

（ＮＨＫ側）

番組の編成については、できる限り視聴者の皆さんの要望に応えられるように検討・工夫している。例えば、ことし６月の「日本陸上選手権」は、当初の計画ではＢＳ１で中継する予定だったが、男子 100 メートル競走で９秒台の記録が期待されていたことから、総合テレビでも放送した。またプロ野球・広島カープの中継については、リーグ優勝する可能性が高くなったことから、もともと中国地方に向けて中継する予定だったが、急きょ全国放送に切り替えた試合もある。視聴者の関心が高いスポーツ中継や番組については、今後も柔軟に編成していく。

（ＮＨＫ側）

柔軟な番組編成という点については、藤井聡太四段と森内俊之九段との対局を、９月３日（日）Ｅテレで「第６７回ＮＨＫ杯テレビ将棋トーナメント」で生放送した。将棋については、通常、対局を事前に収録して日曜午前中に放送しているが、藤井聡太四段がプロデビューから２９連勝して注目されていたことから、開始から勝敗が決まるまでを生放送で伝えた。この対局は視聴者の関心があり、視聴率も高かった。

○　「ラン×スマ～街の風になれ～」を初めて見た。ＢＳで好評だった番組については、地上波でも放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

「ラン×スマ～街の風になれ～」は、全国各地のロードレースを取り上げ、現地の人とのふれあいを紹介している番組だ。マラソンはストイックなスポーツというイメージがあるが、走ることの楽しさやマラソンブームの現状についても取り上げている。引き続き楽しみにしてご覧いただきたい。

○　１０月３日（火）イッピン「すっぴんがステキ！～岡山 備前焼～」を見た。３人の備前焼作家を紹介し、土と炎だけで一品一品を手作りで仕上げていく備前焼の伝統を守りながら、常に工夫を重ねている様子を描いていた。多様な方向を目指す新進気鋭の作家がいることは、備前焼の将来にとってたいへん頼もしく感じた。

（ＮＨＫ側）

「イッピン」は東京で制作している。最近では新しいデザインや色にチャレンジしていることを伝えていた。地元出身の備前焼作家は少なくなっているが、若手の作家を取り上げていて、全国に備前焼を知ってもらう番組としてはとてもよかった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年９月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木）、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

議事はまず、「平成２９年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと、「平成３０年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、１０月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」駅長）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古矢　博通	（公益財団法人 倉敷スポーツ公園理事長）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜「平成２９年度後半期の国内放送番組の編成」および
「平成３０年度の番組改定」について＞

○　「超入門！落語 ＴＨＥ ＭＯＶＩＥ」は、若い人にはあまりなじみのない江戸時代の生活を分かりやすく紹介している。落語といった伝統芸能を継承していくにはよい

番組だ。この番組を復活させたことは評価したい。

○　「びじゅチューン！」など、Ｅテレの時間が短い番組のクオリティーが高い。また「ねほりんぱほりん」は番組の自由度が高くおもしろい。現在の番組コンセプトを守りつつ視聴者を増やしていくよう、一層ＰＲに努めてほしい。

（ＮＨＫ側）

放送は非常に大きな伝達力を持ったメディアで、たいへん多くの方に同時に番組を見てもらうことができる。常にその点を意識して番組を制作していかなくてはならない。あらゆる世代の視聴者のみなさんに対して、できるだけ多くの番組をご覧いただくための広報活動については、公共放送として突きつけられている課題であり、引き続き検討していきたい。

○　来年の大河ドラマ「西郷どん」で、西郷隆盛がどのように描かれるかを楽しみにしている。今後注目していきたい。

○　「趣味の園芸」は、植物の育て方を分かりやすく紹介している。最近では環境や健康などを気にする人も多い。自然農法を取り入れた栽培法を紹介する番組も編成してほしい。

（ＮＨＫ側）

自然農法や有機栽培については、「趣味の園芸」のほか「あさイチ」などの情報番組やニュースの中でも取り上げている。健康志向の情報について社会的な関心が高まっていることは承知している。頂いた意見は今後検討したい。

○　平成２８年度後半期の番組編成では、総合の「超入門！落語　ＴＨＥ　ＭＯＶＩＥ」（水曜　午後 10:50～11:15）とＥテレの「ねほりんぱほりん」（水曜　午後 11:00～11:29.30）の放送時間について、水曜の午後１１時台が一部重複していたが、２９年度後半期の編成では「超入門！落語　ＴＨＥ　ＭＯＶＩＥ」が移設され（木曜　午後 10:25～10:55）、解消された。どちらの番組にも娯楽の要素があり、両方を見たいという視聴者は少なからずいたのではないか。そういった人にとっては見やすくなったと思う。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を踏まえ、平成３０年度の番組改定に向けて、作業を進めていきたい。

＜放送番組一般について＞

○　７月２８日(金)フェイス「米軍基地とどう向き合うか～岩国 空母艦載機受け入れの先に～」を見た。アメリカの空母艦載機が厚木基地から岩国基地に移転することによって発生する問題を分かりやすく伝えていた。空母艦載機を受け入れると東アジア最大の米軍基地になるが、それについての住民の不安が示されていた。朝鮮半島の情勢が緊迫している中で、訓練の内容はなかなか予測できないが、今後も住民の立場に立つ報道をお願いしたい。

（ＮＨＫ側）

この番組では、米軍再編の動きの中で新たに６１機の軍用機が配備されて東アジア最大規模の米軍航空基地になると、周辺の住民にどのような影響があるのかを探った。訓練空域を考えると、岩国市だけではなく西日本すべての広い地域にも関係する問題だ。岩国基地が今後どのように軍用機の運用を行なっていくかという部分について、さらに追っていきたい。

○　私もこの番組を見た。米軍基地の存在については、普通に生活している人の目線でもっと知らせてほしい。今後の続報に期待したい。

（ＮＨＫ側）

岩国基地の問題については、山口局から中国地方５県のすべての市町村にアンケートを実施した。この問題については今後も観察していく。

○　フェイス「米軍基地とどう向き合うか～岩国 空母艦載機受け入れの先に～」は、３０分の中で岩国基地の現状と課題を分かりやすく伝えていた。番組の放送後、北朝鮮からミサイルが発射されたり、米軍の最新鋭輸送機・オスプレイのエンジンから発煙する事故も起きたりしているので、岩国市の近辺の住民感情にも変化があるのではな

いか。岩国市としては国からの交付金や公共工事で経済的に潤うかもしれないが、地域住民に対して課題をつけられたようで、重い気持ちになった。

（ＮＨＫ側）

岩国市が米軍基地を受け入れて、子どもの医療費が無料になったり地域振興策が策定されたりする一方で騒音や事故への懸念が高まり、もはやひと事ではないという住民感情が現れている。この問題については、今後もしっかりと追いかけていきたい。

○　９月１日(金)フェイス「さびない鍬（くわ）でありたい～９７歳 おひとりさまを生きる～」を見た。前向きに暮らしている石井哲代さんが「人間、横着を考え出したらさびが出る。人間、さびたらダメですね。くわだってさびたら使いものにならん。さびがこんように使いよらにゃいけん。楽な方にいくのはさびの元」といった趣旨のことを言っていたが、それがとても心にしみた。石井さんが暮らす広島県尾道市の山間では、自ら「仲良しクラブ」を立ち上げて自分より年下の仲間を元気づけたり、逆に田植えを手伝ってもらったりして、コミュニケーションをとりながら楽しく豊かに生きる姿が印象的だった。この番組を見て元気をもらった視聴者も多かったのではないか。とても心に残る番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組を制作する中で、石井さんに許可を得て家に固定カメラを設置させてもらったが、映像には、地域の人たちが一人になった石井さんを気にかけて、軒下にある冷蔵庫に食べ物や飲み物を自由に入れておすそ分けをしている様子が映っていた。石井さんのひと言ひと言が格言のようでとても説得力があった。彼女の生き方が視聴者のみなさんに伝わったのであれば、とてもうれしい。

○　９月８日(金)フェイス「わたしたち“闘病女子部”です」を見た。番組では鳥取県米子市の“ななさん”は難病を患っている女子高校生に焦点を当て、彼女が「闘病女子部」という活動を立ち上げて、全国で病気と闘う１０代から２０代までの 100 人以上の女子がネットでつながり、明るく前向きに生きる姿を紹介していた。難病になるととかく家庭や学校から特別な扱いをされがちだが、ＳＮＳを使い等身大で向き合うことで考え方が広がっていた。そのような彼女たちの前向きな考えにとても感心した。取材先は東京や埼玉、山形にまで及び、闘病している女性の部屋で暮らしぶりを撮影

していたが、ディレクターと女性たちとの信頼関係がうまくできていることが伺えた。この番組にはナレーションがなく、効果音はピアノの音だけというシンプルな構成だったが、１人１人の気持ちがよく伝わって新鮮だった。

○　難病になるとつらい気持ちになりがちだが、それを生きる力に変えている姿がよく描かれていた。

（ＮＨＫ側）

　この番組は、担当のディレクターがかなり苦労して制作した。彼女たちの体調が思わしくない場合には、ロケを中止することもあった。そのような中でもなんとか放送にこぎ着けられたのは、ディレクターの努力のたまものだと思う。番組には一滴の涙も映っておらず苦しそうな表情もほとんどなかったが、そうしたシーンがなくても彼女たちの苦悩や率直な気持ちを伝えることができたのではないか。

○　９月１５日(金)@ｏｋａｙａｍａ「もぎたて！スペシャル・もぎ名山総集編」を見た。スポーツ上級指導員の山﨑裕晶さんと岡山局の髙橋尚子キャスターが、登山に適した靴や服装、スズメバチの注意点などについて、初心者にも分かるように紹介していたが、もう一歩進んで登山のツアーについて取り上げたり、お年寄りや子どもにもロケに参加してもらったりすれば、この番組をきっかけにして、秋の紅葉シーズンに向けて登山に挑戦しようという人も増えたのではないか。

（ＮＨＫ側）

　「もぎ名山総集編」は、岡山県向けに放送している午後６時台の「もぎたて！」の枠内で、月に１回放送しているコーナーだ。今回はその中からえりすぐって、岡山県と鳥取県にまたがる毛無山と岡山県南部にある熊山を紹介した。髙橋キャスターは登山の初心者だったこともあり、靴や服装など基本的なことを丁寧に尋ねることを心がけていたが、それだけではなくもっとほかの事柄も伝えられたかもしれない。視聴者からは山での食事に関する疑問なども寄せられたので、今後の番組制作に生かしていきたい。この番組は４Ｋカメラで撮影してきれいな映像を撮ることができたので、ほかの番組にも展開していきたい。

○　９月２日(土)「√るーと５ｍｉｎ．～大山登山に挑戦！その２～」を見た。番組の中で芸人のマンボウやしろさんが「観光大使になりたい」とよく言っていたが、伊木隆司米子市長から観光大使に任命されたのが感慨深かった。５分間の番組だったが、とても充実した内容だった。

（ＮＨＫ側）

マンボウやしろさんには観光大使任命について事前に伝えずに撮影したが、自然な反応で楽しいシーンになった。これからも鳥取県内のさまざまな場所を取り上げていきたい。

○　８月１３日(日)ＮＨＫスペシャル「７３１部隊の真実～エリート医学者と人体実験～」と１４日(月)ＮＨＫスペシャル「樺太地上戦 終戦後７日間の悲劇」、１５日(火)ＮＨＫスペシャル「戦慄の記録 インパール」を見た。「終戦の日」だからこそ戦争末期に何が起きたのか、正面から事実に向かい合って二度と戦争が起こらないように考えることが大切だ。この一連の番組はとてもよかったので多くの人に見てほしいと思った。一方で、戦争反対と訴えるだけではなく、現在の戦争に関する知識や想定される被害などについても知っておくべきだと感じた。

○　８月１９日(土)ＮＨＫスペシャル「９秒台へのカウントダウン　密着 日本男子スプリンター」を見た。男子陸上 100 メートルのサニブラウン アブデル・ハキーム選手、多田修平選手、ケンブリッジ飛鳥選手、桐生祥秀選手、山縣亮太選手の取り組みを追っていた。時系列的には、８月１９日(土)に「ＮＨＫスペシャル」を放送して、９月９日(土)には桐生選手が 9.98 秒を記録した。その２日後の１１日(月)にはクローズアップ現代＋「１００ｍ９秒台の世界へ～日本選手初・桐生祥秀が語る～」を放送していたが、ホットな話題を迅速に放送したことに驚いた。「ＮＨＫスペシャル」では９秒台に向けた科学的アプローチを分かりやすく説明していた。将来、技術が発達して機器が小型化され、選手の動きのデータが細かく取得できるようになった時には、それを活用してさらに分かりやすく伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

９月１１日(月)の「クローズアップ現代＋」については、急きょ当初の予定を差し替えて、放送当日の桐生選手の取材やこれまでの番組映像などを入れて放送した。ゲストには元陸上選手の為末大さんを迎えて、日本陸上界のこれまでの取り組みや苦難、偉業達成の真相、進

化の秘密などを分かりやすく伝えていた。今後も 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて注目していきたい。

○　９月１０日(日)ＮＨＫスペシャル「スクープドキュメント 沖縄と核」を見た。沖縄がかつて東アジア最大の核拠点となっていたことは知られていたが、さらに新しい公文書や元兵士の証言が出ることを期待しながら見た。今回見つかった公文書からは、沖縄県伊江島は核攻撃の訓練場だったことが分かった。ここを安い補償金で地元民の立ち入りを禁じ、低高度爆撃の訓練を行っていたことが記録されていた。訓練に巻き込まれて亡くなった住民もいたようだ。現在、那覇港がある場所にあった基地で、核弾頭を搭載した地対空迎撃ミサイルの誤発射があったことも証言していた。核を積載できるミサイルの誤射があったことは重大な事件で、このような事実を伏せて沖縄の返還交渉を行った日本政府の責任はとても重いと感じた。

（ＮＨＫ側）

この「ＮＨＫスペシャル」は、アメリカ国立公文書館に長期取材を行って内部文書を探し出し、アメリカ元兵士のインタビューなども交えて制作した番組だ。この中で 1962 年のキューバ危機では中国を狙っていたという証言や、ミサイルの誤発射でアメリカの海兵隊員が１人死亡したという新たな事実を伝えていた。

○　９月１８日(月)超人たちのパラリンピック「風を切って走れ～陸上・車いす 佐藤友祈～」(総合 前 0:10～0:59)を見た。この番組はタイトルで引き込まれた。佐藤選手は昨年のリオデジャネイロパラリンピックで２つの銀メダルを獲得し、ことし７月の世界パラ陸上ロンドンでは二冠に輝いたが、最新の科学的な分析を行って分かりやすく説明していた。日常の生活と練習や競技をしているときの姿が大きく異なっていたので、彼のパーソナルな面も知りたくなった。佐藤選手はこれからも活躍すると思うので、東京パラリンピックに向けて、引き続き追いかけてほしい。

（ＮＨＫ側）

車いす競技の佐藤選手については、リオデジャネイロパラリンピックの前から取材を行い、昨年５月に放送したＥテレの「ハートネットＴＶ」でも取り上げた。「超人たちのパラリンピック」は競技の技術的な面に焦点を当てている番組だが、今後も佐藤選手に密着して取材を続けて、ほかの面についても取り上げていきたい。

○　８月２０日(日)大河ドラマ「おんな城主 直虎」の第３３回「嫌われ政次の一生」を見た。但馬政次が処刑されるシーンで、直虎自身が手をかけることは、多くの視聴者は想像していなかったのではないか。最近の大河ドラマではいわゆる“ナレ死“が多かったが、今回のシーンはとてもリアルだった。直虎にとって人生を変えるような大きなインパクトがあったことが分かった。

（ＮＨＫ側）

「おんな城主 直虎」は森下佳子さんが脚本を担当している。森下さんはセリフとは裏腹の思いを描くことが得意な脚本家だ。このシーンでは、直虎が政次を処刑することが井伊家を救うことだと察して政次を刺すという場面をうまく表現していた。１０月からは直虎の嫡男・虎松が登場し、新たな展開になるので楽しみにしてほしい。登場人物が死亡するシーンを具体的に描くことなく、単にナレーションで伝える“ナレ死“の場面をどれだけ盛り込むかということは、脚本家の趣向による部分が大きい。前作の「真田丸」ではその傾向が強かったが、今後もバリエーションを考えながら制作していきたい。

○　８月２５日(金)ドキュメント７２時間「山奥の不夜城レストラン」を見た。山口県岩国市にある、中国山地を走る国道沿いの深夜七色の輝きを放つ不思議なファミリーレストランを取り上げていた。ここは地元でも親しまれている場所で、遠方からの家族連れの客や平成生まれの若者もやってくる。このレストランの何とも言えないキラキラした雰囲気がよく伝わっていた。これまでの「ドキュメント７２時間」は、日常生活のいわゆる“ケ”に焦点を当てたものが多かったが、今回は病気が治って退院したおばあちゃんを連れてくるといった、非日常の“ハレ”のシーンが多く、とてもおもしろかった。

（ＮＨＫ側）

この番組を制作した２０代の女性ディレクターは、山の中に夜も明るい場所があることを知って取材を始めた。多くの家族が和気あいあいと食事をしていた様子が印象に残り、ここで撮影することを決めたが、予想以上のバリエーションがあって本人も驚いていた。閉店の間際にやってくるフィリピン人の家族やジャマイカ出身の米軍兵士など、この地域ならではの人間模様も描くことができたのではないか。

○　８月１８日(金)さわやか自然百景「島根 隠岐諸島」(総合 後 6:30～6:44 中国ブロック)を見た。新緑の葉を目当てに動き回るオキノウサギや木の幹を伝うオキマイマイ、沢に生きるオキサンショウウオなど、隠岐特有の小さな生物を取り上げていた。時間をかけて丁寧に撮影していることがよく分かった。

○　８月１０日(木)「くろげん＋夏休み課外授業 親子でまなぼう！“戦争とテロ”」(総合 後 7:30～8:43)を見た。世界中の子どもたちに絵を描いてもらい、子どもたちが見た戦争やテロについて考える番組だった。俳優の鈴木福くんと山田瑛瑠くんが中東・シリアの女の子に、「今、一番楽しいことって何ですか？」「今の夢ってなんですか？」といった前向きな質問をしていたことに感動した。また、戦争で厳しい状況の下で生きている子どもにも医者になりたいという大きな夢があることにも心を動かされた。番組の中で、イラクのアリー・アルカーンくん(１１歳)が描いたイラストを基に動画を制作していたが、戦争のために大好きなサッカーをすることができなくなることを分かりやすく伝えていてすばらしかった。もっとほかの映像も見たくなった。

（ＮＨＫ側）

「くろげん＋夏休み課外授業　親子でまなぼう！“戦争とテロ”」は、子どもたちに戦争をどう継承していくかを真剣に伝えていた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫオンラインには、「ＮＨＫ ｆｏｒ Ｓｃｈｏｏｌ」という、学校放送番組をストリーミングで見られるネットのコンテンツがある。この中には「親子で“戦争とテロ”について考えてみませんか」というサイトがあるが、番組を見たあとに子どもといっしょに考えるページや「子どもからの疑問に答える」コーナーもあるので、ぜひ親子でご覧いただきたい。

○　８月２７日(日)釣りびと万歳「“海のスプリンター”ヒラマサをしとめろ！～高橋光臣　島根・浜田へ～」を初めて見た。この地方独特の「たるカゴ仕掛け」という釣り方やオキアミの料理法なども紹介していて興味深かった。

（ＮＨＫ側）

「釣りびと万歳」は釣りを題材にした紀行番組だ。地元の島根県浜田市の雰囲気もよく伝わったのではないか。今後もご覧いただきたい。

○　ラジオ第１「旅ラジ！」では、８月２８日(月)から３１日(木)まで、鳥取県の各地から鳥取県のよさを伝えていた。２９日(火)に中継で紹介したスポーツクライミングがオリンピックの正式種目になるということで、この競技について分かりやすく説明していたのがとてもよかった。アナウンサーが会場に呼びかけても、来場者の声が小さかったことが残念だった。

（ＮＨＫ側）

当日の「旅ラジ！」の来場者は４０人程度だった。今後は、会場の雰囲気作りや事前の周知活動なども含めて検討したい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年７月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、８月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」駅長）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古矢　博通	（公益財団法人 倉敷スポーツ公園理事長）
	村武まゆみ	（浜田市立国府公民館　主事）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　５月２６日(金)フェイス「“風の人”と創るふるさと～新潮流！“定住しない”地域おこしの担い手～」は、島根県江津市で新しい店をオープンさせたり、雲南市で訪問看護を始めたりしている事例を伝えていた。今、地方では定住人口が減少する中で、交流人口を増やそうと“観光客の取り合い”をしているが、番組では「関係人口」という地方再生のヒントを紹介していた。この「関係人口」という概念は重要なキーワ

ードだ。これをテーマに「フェイス」を制作できるのではないか。

（ＮＨＫ側）

地元の人だけではなく、外からやってきた人の力も借りながら地域おこしをしようという取り組みは、中国地方でも注目されている。引き続き取材を続けていきたい。

○　６月３０日(金)フェイス「それでも私は訴える～拉致事件４０年 家族の日々～」を見た。北朝鮮情勢がこれまでになく緊迫して日朝関係の先行きが見えなくなる中で、この拉致事件は絶対に風化させてはならない。拉致被害者の松本京子さんの兄の孟さんは、今後も京子さんの救出を訴え続けていくと語っていたが、家族を支えることを真剣に考える必要がある。番組は淡々としたテンポだったが、風化しつつある拉致被害者への思いを呼び起こすようで心に響いた。今後も家族に寄り添った番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

この番組は６月２日(金)とっとりスペシャル「苦しみの連鎖は断ち切れるか～拉致事件４０年 家族の日々～」(総合 後 7:30～7:59 鳥取県域)を再構成したものだ。拉致事件については、解決だけではなく風化をさせないことも重要だが、現実には被害者の家族の中でも風化を懸念していることを伝えたいという思いで制作した。この番組は、鳥取に根ざしている記者が孟さんと良好な関係を保ちながら取材を続けたもので、家族から多くの話を聞くことができた。

○　６月１６日(金)「鳥取・八頭発！うた自慢」(総合 後 8:00～8:43 鳥取県域)を見た。この番組は「ＮＨＫのど自慢」に似ていたが、出場者だけではなくその家族も紹介するなど、地域の人々の元気を引き出そうという工夫がされていた。ゲストには歌手の森昌子さんが出演して、持ち歌を２曲も歌ってくれたことがうれしかった。地域に密着した番組でとてもよかった。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫのど自慢」と「鳥取・八頭発！うた自慢」はどちらも、誰もが同じ舞台で盛り上がれる歌を通じて、人々を元気づけていく番組だ。「鳥取・八頭発！うた自慢」は、地域に寄り添った番組作りに努

めた。

○　私も「鳥取・八頭発！うた自慢」を見た。司会の鳥取局の五味哲太アナウンサーの元気がよく、出場した小さな女の子に対して姿勢を低くして受け答えをするなど、とても好感が持てた。地元の出場者の笑いあり涙ありのステージで、身近に感じた。画面と自分の間が縮まっていくようで楽しい番組だった。

（ＮＨＫ側）

アナウンサーに温かいことばをいただきお礼申し上げる。新人のアナウンサーは、地域放送局に配属されて多くの経験を重ねて成長していく。これからも見守っていただきたい。

○　６月２３日(金)島根スペシャル「人口減少に挑む」(総合 後 7:30～8:43 島根県域)を見た。これからどのように人口減少に向き合っていけばよいかという議論が交わされていて、とても興味深かった。人口が少なくなると、一人がいくつもの仕事を担っていかなくてはならないという発言に共感した。番組ではアンケートの結果を紹介していたが、視聴者の生の声を伝えられれば、もっとよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

番組では、成長を前提にした現在の社会の仕組みを考え直し、今後は人口が減少する中で豊かな人材を増やしていく視点での取り組みが求められるという問題提起ができたと思う。視聴者の意見をどのように盛り込むかという点については、当初生放送も検討したが、テーマが重いため、今回は事前にアンケートを実施し、その回答を基に追加取材を行い、スタジオでの議論を収録した。人口減少の問題については取材を続け、番組の構成や演出は今後も研究していきたい。

○　午後６時台の「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」で取り上げられる地域の活動やイベントの話題について、前の年と同じと感じることがある。伝統的なイベントを伝えていく意義は理解できるが、地域では新たな活動やイベントが動き出しているので、さらに広く取材してほしい。

（ＮＨＫ側）

ニュースのマンネリ化は常に戒めている。広島・長崎の「原爆の日」など毎年伝えていくべきものもあるが、取材の切り口や取り上げ方を都度検討して伝えていかなくてはならない。頂いた指摘はありがたく受け止め、現場に伝えたい。

○　午後６時台の「情報維新！やまぐち」の気象情報のコーナーで、「ザーザー降り」という表現があった。あまり聞き慣れなかったので、気象庁のホームページを確認すると、「天気予報等で用いる用語」の「やや強い雨」を表すことばとして「ザーザーと降る」という表現があることが分かった。

（ＮＨＫ側）

「情報維新！やまぐち」の気象情報は、渡部圭吾気象予報士が担当している。彼は普段から正確に表現しようと心がけており、気象に関する用語も気象庁の表現に沿って伝えている。

○　６月１８日(日)ＮＨＫのど自慢「岡山県吉備中央町」を見た。おもしろいキャラクターの出場者が多く、岡山県で楽しく暮らしていることが全国に伝わったのではないか。中学生の出場者は、歌い方やキャラクターが似たような感じだった。ゲストの小林幸子さんは会場を盛り上げるのがとても上手で、スター性のある人だった。

（ＮＨＫ側）

今回の「ＮＨＫのど自慢」では、同じ歌を歌った中学生が２人いた。演出上のねらいがあったようだが、特段のコメントはなかった。指摘については現場に伝えたい。

○　７月１０日(月)鶴瓶の家族に乾杯「日本の原風景ＳＰ　羽田美智子と鳥取県日南町ぶっつけ本番旅」を見た。女優の羽田美智子さんは、場を和ませる明るい人柄が好印象だった。感動的だったのは、笑福亭鶴瓶さんが平成２５年１１月に放送した島根県奥出雲町の旅で駅前の写真店で出会った人に再会したことで、その偶然にとても驚いた。

（ＮＨＫ側）

番組を制作していると想定していたよりもよい場面を撮れることがあるが、今回の「鶴瓶の家族に乾杯」はまさにそういった番組だった。

この番組は、名前のとおり「ぶっつけ本番」の旅をして、地域の人々とやりとりをしている。笑福亭鶴瓶さんの一般の方とのコミュニケーションがとても上手で、さらに次の感動的な出会いにつなげていく力もすばらしいと思う。

○　７月１９日(水)ガッテン！「疲れ目撃退！本当の原因解明ＳＰ」を見た。街頭で両目を内側に寄せられるかというチェックをして、それをできない人は目が疲れやすいことを紹介するとともに、疲れ目の解消法を分かりやすく伝えていた。目をつぶると自然に外側に向くのは、昔、人間が魚だったころは目が横向きで、その進化の跡だという説明も勉強になった。

○　６月２５日(日)さわやか自然百景「鳥取 東中国山地」を見た。具体的な地名を伝えていなかったが、放送されることでその場所が荒らされるというおそれがあったのかもしれない。モモンガの赤ちゃんが巣箱に２匹いて、母親が杉の皮をかみ砕いて布団にしている姿や巣立つまでの子育ての様子を初めて見たので、感動した。ニホンリスが林の中で生きている姿やイヌワシが翼を広げて空を飛んでいる場面は、鳥取県の自然の豊かさをよく伝えていた。クマの親子が歩いている映像があったが、クマに襲われてけがをしたり亡くなったりすることもあるので気になった。

（ＮＨＫ側）

　きちんと手入れがされている人工林では、多様な動物が生きることができる。この番組のロケ地は鳥取県智頭町だったが、智頭杉も手入れが行き届いていることがよく分かった。指摘のあったクマの映像については、離れた場所から望遠レンズを使用して撮影しているので、安心していただきたい。

○　７月２日(日)さわやか自然百景「島根 奥出雲の棚田」を見た。１４分の短い時間だったが、多くの映像が使われていて中身の濃い番組になっていた。ドジョウの産卵シーンは初めて見たが、手間や時間がかなりかかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

「さわやか自然百景」は今も多くの自然が残る棚田に生息する生き物に焦点を当てて制作した。生物の生態に詳しいディレクターが自然の豊かさを知ってもらおうと、１年がかりで撮影した。

○　６月２３日(金)から２６日(月)にかけて、「第１０１回日本陸上選手権」を見た。ゲストが短距離選手の髙平慎士さん、長距離の解説が日本記録を持っている高岡寿成さんで、分かりやすかった。トラックの長距離種目は競技時間が長いために、途中でフィールド種目に切り替わったが、１キロごとのタイムも気になった。テレビのリモコンでほかの競技と長距離種目を切り替えて見ることができれば、さらにおもしろくなるのではないか。ぜひ検討してほしい。

（ＮＨＫ側）

「日本陸上選手権」は毎年放送しているが、ことしは男子 100 メートル競走で９秒台を記録するかという期待と関心が高まっていたこともあり、総合とＢＳ１で分厚く伝えた。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて盛り上げていきたい。

（ＮＨＫ側）

ことし１月２２日（日）に放送した「第２２回全国都道府県対抗男子駅伝」では、テレビに映されていない場面の映像についても、インターネットのストリーミングで伝えた。すべてのスポーツ中継に対応していくことは難しいが、今後もこういったさまざまな見せ方の工夫をしていきたい。

○　７月１９日(水)「ニュースウオッチ９」を見た。九州北部豪雨から２週間後の状況について福岡県朝倉市から中継があり、地区を取りまとめている人にインタビューをしていたが、被災した人に対するスタジオからのおざなりなコメントが気になった。被災地からの報道は、現地の人の声をくみ取るものなのか、ニュースで伝えるために被災者に出演してもらうのかが問われているように感じた。

（ＮＨＫ側）

指摘を頂いた点については改めて確認し、視聴者の方に不快感を与え共感を呼ばない表現があったのであれば反省すべきで、関係部署にも伝えたい。

（ＮＨＫ側）

ニュースは、現場にいる人の気持ちを受け止めながらできるだけ多く取材をして、多角的に伝えることが大切だ。指摘のようなやりとり

があったのであれば問題で、頂いた意見は十分参考にしたい。

○　国連交渉会議で核兵器禁止条約が採択されたことは画期的な出来事で、ＮＨＫが伝えてくれると期待していたが結局放送しなかった。たいへん残念だった。

（ＮＨＫ側）

核兵器禁止条約のニュースは、当日７月７日（金）午後 11:53 に、「『核兵器禁止条約』国連交渉会議で採択 米ロなど核保有国や日本は不参加」という内容をテレビのスーパーで速報するとともに、翌日の「ＮＨＫニュースおはよう日本」でも伝えた。報道が十分ではないという意見であれば、真摯(しんし)に受け止める。

○　６月５日(月)グレーテルのかまどｓｅｃｏｎｄ　ｓｅａｓｏｎ「吉田松陰の大福もち」について、松陰が地元の出身だったこともあり番組のタイトルにつられて初めて見た。大福もちが好物だった松陰の人柄を紹介し、実際に大福もちを作るという番組構成が斬新だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、さまざまな歴史上の人物が好きだったスイーツをテーマに、そのエピソードとレシピを紹介している。松陰には自分に厳しく禁欲的というイメージがあるが、唯一大福もちの誘惑には勝てなかったという意外な一面を伝えた。

○　７月８日(土)ＥＴＶ特集「キミのこと聞かせてよ～木原雅子さんの出張授業～」を見た。京都大学の木原雅子医学研究科准教授が、学級崩壊に悩んでいる宮崎県延岡市の中学校に出かけて行って、半年をかけて立て直しをする様子を紹介していた。思春期の中学生はとてもデリケートだが、性教育の授業を含めありのままに撮影して、違和感なく見ることができた。最後に中学校の校長が「結局子どもを変えるには一人ひとりの話をずっと聞くのが近道なんですよね」と言っていたのがとても印象に残った。校長先生のように時間がかかっても丁寧に生徒と接することが大切だと共感する先生もたくさんいるのではないか。このような考えが広がっていけば、日本の問題や社会の課題が少しずつでも改善していくと思う。

○　７月１５日(土)ＳＷＩＴＣＨインタビュー 達人達(たち)「満島ひかり×海部陽介」を見た。ことし生誕100年を迎えた作家の島尾敏雄と妻のミホの愛と憎しみを巡る映画「海辺の生と死」に主演している満島ひかりさんと、アシ船で台湾から与那国島の航海に挑んで日本人の起源を探る海部陽介さんが対談する番組で、タイムリーな人選だった。満島さんは沖縄生まれで、奄美をルーツにしている。「島を故郷にする人は皆、自分のルーツを探している」という発言が印象に残った。海部さんの日本人の起源探しとイメージ的につながるのかもしれない。沖縄は女性が強いと思っていたが、「奄美は女の島で、沖縄は男の島」というコメントがあったので、その理由をもっと知りたかった。

○　７月９日(日)Ｔ４４Ｔ５４～パラアスリート 私の視点～(ＢＳ１ 後 7:00～7:50)を見た。パラアスリートの陸上競技の中西麻耶選手と車いすランナーの樋口政幸選手を取り上げた番組で、初めて知ることが多かった。樋口選手の「現状維持で続けるんだったらやらなくてもいいと思っている。向上し続けるにはやっぱり変わり続けないといけない」ということばが印象に残った。エンディングで、ミュージシャンのＮａｋａｍｕｒａＥｍｉさんが中西選手との出会いを通して作った歌を放送していたのもよかった。番組の中で、何回か俳優の風間俊介さんと檀蜜さんのドラマのようなシーンがあったが、この部分が必要だったのか疑問に感じた。

（ＮＨＫ側）

パラリンピックの競技については、昨年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックから毎日中継した。2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、さらに多くの種目を放送するためにいろいろな研修を行うなど、すでに準備を進めている。競技の中継だけではなく選手の日々を追ったドキュメンタリーなど、パラリンピックの関連番組も検討している。

○　７月５日(水)から始まった「プリンプリン物語～連続人形劇～」(ＢＳプレミアム 後 11:00～11:29)を見た。かわいい人形が懐かしく、プリンプリン本人を演じていた石川ひとみさんの声がぴったりと合っていた。登場するキャラクターたちには強烈な個性があり、歌にも特徴があるので、これからも期待している。

○　７月１１日(火)アナザーストーリーズ 運命の分岐点「沖縄返還～祖国復帰 運命の１日～」を見て、ドルから円への通貨転換という大きなプロジェクトがあったことを知った。当時の琉球政府や日本銀行那覇支店、地元の金融機関の職員の献身的な努力や、自衛隊、警察、アメリカ軍などの協力もあってこのプロジェクトが完了したことがよく描かれていた。このプロジェクトに携わった人の使命感に敬意を表したい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、８月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安井　　弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバーザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」駅長）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	村武まゆみ	（浜田市立国府公民館　主事）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　４月２８日(金)フェイス「ふるさとの星になれ～プロバスケ１部昇格への闘い～」を見た。昨年Ｂリーグが開幕したことは聞いていたが、どこにどういったチームがあるのかよく知らなかった。バスケットボールはチームスポーツで、選手や指導者の人柄や考え方などが大きく影響するので、そういった部分も取り上げてもらうとありがたい。

（ＮＨＫ側）

この番組は、島根と広島でプロのバスケットボールを地域に根づかせようとしている取り組みや課題を紹介した。バスケットボールのチームワークに関係する部分については、午後６時台「お好みワイドひろしま」のリポートなどでも伝えていきたい。

○　５月２６日(金)フェイス「“風の人”と創るふるさと～新潮流！“定住しない”地域おこしの担い手～」を見た。島根県江津市で新しい店をオープンさせたり、雲南市で地域医療改革に取り組んだりしている若者を紹介していたが、新たな地域の担い手として活躍している姿に明るさを感じた。地域を活性化させるための希望やヒントを教えてもらうことができた。

○　私もこの番組を見た。“風の人”と呼ばれている若者が地域の活性化に向けて尽力していることがよく分かった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、過疎化が進む街をいかに活性化させていくかという試みを伝えた。地域活性化については、とかく自治体の活動に目がいきがちだが、若者が問題意識を持って取り組んで成果の出ている事例を紹介し、なんらかのヒントになればと考え制作した。これからも人口減少に挑む視点で取材を続けていきたい。

○　６月２日(金)とっとりスペシャル「苦しみの連鎖は断ち切れるか～拉致事件４０年家族の日々～」(総合 後7:30～7:59 鳥取県域)を見た。松本京子さんが北朝鮮に拉致され、救出を訴え続けている家族の４０年間を追っていた。兄の松本孟さんが高齢になり体力が衰える中で、誰に事件を引き継げばよいのかといった不安な思いや拉致事件に対するやるせない気持ちがよく描かれていた。心に残る番組だった。

○　私もこの番組を見た。鳥取県米子市の松本京子さんが拉致された事件はこれまでニュースや講演会で見たり聞いたりしていたが、この番組で家族がどのような思いで過ごしてきたのか、深く知ることができた。兄の孟さんががんと闘いながら「この先、妹の捜索を家族に任せることも考えにくい」と話す場面が印象に残ったが、鳥取局の小林沙貴アナウンサーの優しい語り口が番組全体をソフトにしてくれた。いとこの女性が当時の状況を語るシーンは、スタッフの努力の成果だと実感した。このような県民や国民、さらに世界の皆さんが考えるきっかけとなる番組はこれからも続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

拉致事件については、午後６時台の「いちおしＮＥＷＳとっとり」などで定期的に伝えているが、この「とっとりスペシャル」では、松

本さんの家族が京子さんの救出を訴える活動が途絶えるかもしれないという危機感を持っていることを、視聴者の皆さんに知ってもらいたいと考えて制作した。この問題については引き続き追っていきたい。

○　「√るーと５ｍｉｎ．」～笑う門には福来る！鳥取 復興の町を行く～(総合 後 0:40～0:45 鳥取県域)を見ている。鳥取県の若者に人気があるようなので、期待している。

○　５月２６日(金)ＹＡＭＡＧＵＴＩＣ「山口ことばの物語 総集編『私を変えた山口のことば』」(総合 後 7:30～7:59 山口県域)は、山口県にゆかりのある人のことばや、その影響を受けた人のエピソードをうまくまとめていた。今回、山口県で有名な金子みすゞや中原中也を取り上げていたが、あまり知られていなくても古くから地域に引き継がれていることばも伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

この番組は、午後６時台「情報維新！やまぐち」で伝えている「山口 ことばの物語」のコーナーを再構成して放送した。先人の言葉とそれに触発されたさまざまな人々との、いわば化学反応を見ていただきたかった。これから著名な人ばかりではなく、歴史に埋もれている人のことばも掘り起こしていきたい。

○　５月２０日(土)ブラタモリ「＃７３ 尾道」を見た。今まで尾道市を訪れたことはなかったが、昔は海だった場所の痕跡が紹介されていて興味深かった。島根県浜田市には国の天然記念物に指定されている石見畳ヶ浦という貴重な景勝地があるので、ぜひタモリさんに来てほしい。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」は平成２１年にレギュラー番組が始まり、途中に休止期間を挟みながら放送している。島根県はおととし８月に松江市と出雲市を取り上げているが、まだ訪れていない都道府県や２回訪問している地域もある。これからもご覧いただきたい。

○　６月３日(土)ブラタモリ「＃７４ 倉敷」を見た。案内人が地元のことを好きなようでとても一生懸命に説明していたが、もう少しリラックスして伝えてほしかった。タモリさんの勘がよくて、案内人の問いかけを全部当てるので、果たして質問する意味

があるのかと疑問だったが、近江友里恵アナウンサーの反応が面白かった。倉敷の町並みや建物の特徴を分かりやすくまとめて、ドラマのセットのようにきれいに見せてくれた。今回、番組に出演していた人は男性ばかりだったが、女性のコメントも欲しかった。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」は、タモリさんのひょうひょうとした人柄にマッチする案内人を見つけることが大変だと聞いている。この番組はその場所に行ったことがない人にも親しみを持ってもらえるよう、いろいろと工夫を重ねている。今回番組に出演していただいた倉敷市教育委員会の方は、事前に１０回もロケ地に行きどのように説明するか熱心に練習したようだ。一生懸命に説明していたのは、そういった意気込みが現れたのだと思う。タモリさんと近江友里恵アナウンサーのやりとりでは、タモリさんが言い当てるシーンと近江アナウンサーの表情が対照的で、強く印象に残ったのかもしれない。

○　６月１３日(火)人名探究バラエティー 日本人のおなまえっ！「レア名字」を見た。誰にもある苗字がテーマで身近に感じた。富山県射水市にある珍しい名字が多い地域に行って、風呂さん、酢さんといった変わった名字の人がいることを紹介していたが、同感できる部分が多かった。レア名字を持つ人の座談会では、電話で自分の名前を言ってもなかなか分かってもらえないといったエピソードがあって、うなずくことができた。

○　「アスリートの魂」と「グッと！スポーツ」を毎回見ている。５月２３日(火)グッと！スポーツ「プロゴルフ 上田桃子の技と心に迫る」では、ライバルでもある諸見里しのぶさんのコーチに指導してもらう場面で、「やってやれないことはない」ということばが心に残った。「グッと！スポーツ」は、ＭＣの相葉雅紀さんが選手の気持ちをうまく引き出して、打ち解けた雰囲気になっているので気軽に見ることができる。

（ＮＨＫ側）

「アスリートの魂」と「グッと！スポーツ」はいずれもスポーツ番組だが、取り上げ方が異なっている。「アスリートの魂」は選手に密着して内面まで踏み込むドキュメンタリー番組だが、「グッと！スポーツ」はオリンピックなどにも出場するアスリートの意外な面も紹介

しており、それぞれが異なる切り口でスポーツ選手に迫っている。委員から好評の意見を頂いたことは、本部にも伝えたい。

○　「サラメシ」を楽しみに見ている。６月１３日(火)に放送した高速道路のパーキングエリアの回では、長距離トラックの運転手の人間模様がよく描かれていた。また亡くなった著名人の昼食を紹介する「あの人が愛した昼メシ」のナレーションが印象的でよかった。

○　６月４日(日)ＮＨＫスペシャル 私たちのこれから「＃子どもたちの未来」を見た。若者や高齢者などいろいろな人がスタジオで発言していたので、多様な意見を聞くことができた。番組の冒頭で子どもの貧困の実態が説明されていて、学ぶことの大切さに気がつかずに勉強から遠のいていく、貧困の連鎖が起きていることも分かった。日本の貧困の現状や外国の支援策を具体的に紹介し、高齢者に比べて子育て世帯向けの社会保障の給付の割合が少ないこともかみ砕いて説明していた。この「私たちのこれから」は今回が最終回だったが、なぜ貧困が問題なのかを知り、学ぶことの大切さを広く知ってもらうことはとても重要なので、このようなテーマはぜひ続けて取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

子どもの貧困については、子どもや親だけではなく社会全体に損失を及ぼす問題で今日的な課題でもある。「ＮＨＫスペシャル」でもこれまで何度か取り上げているが、地方には地方なりの独特な問題もあると思うので、これからもお伝えしていきたい。

○　６月１０日(土)の「ＮＨＫスペシャル ニッポンの家族が非常事態！？」第１集「わが子がキレる本当のワケ」と、１１日(日)の第２集「妻が夫にキレる本当のワケ」を見た。第１集では、思春期の子どもが怒りだすメカニズムを分析していたが、具体的にどのように対処すればよいのかが分からなかったので、続編を期待したい。第２集では、夫婦のトラブルのメカニズムだけではなく、具体的な対処法も説明していたので、実践できるような気がした。

（ＮＨＫ側）

この番組は、脳科学を切り口に子どもと女性が怒りだす理由を説明していた。第２集では、働いている女性と家事・育児をしている男性

のホルモンのバランスを計測し、オキシトシンとテストステロンの分泌量が通常の男女とは逆になるデータを示し、男性と女性の違いを理解して絆を強める糸口を分かりやすく解き明かしていた。

○　私も６月１０日(土)と１１日(日)ＮＨＫスペシャル「ニッポンの家族が非常事態！？」を見た。自分の経験を振り返ってみてどちらも納得はできたが、夫婦のトラブルを解消させるアドバイスについては、私にできるか疑問に感じた。

○　５月２８日(日)ＮＨＫスペシャル「変貌するＰＫＯ 現場からの報告」を見た。国連のＰＫＯ活動で南スーダンに派遣されている陸上自衛隊について、実際に現地でどのようなことが起こったのかがよく分かるドキュメンタリーだった。

（ＮＨＫ側）

この番組では、自衛隊員を一人一人の本音をよく引き出すことができた。

○　昨年８月１３日(土)に放送したＮＨＫスペシャル「ある文民警察官の死～カンボジアＰＫＯ ２３年目の告白～」が、文化庁芸術祭優秀賞や放送文化基金賞最優秀賞などを受賞した。以前この番組を見て、よいドキュメンタリー番組だと思っていたが、きちんと評価されてよかった。再放送されるようなので改めて見たい。

○　「みいつけた！」のオフロスキーさんとダツイージョさんのするめのダンスがネットで話題になっている。私がダンスをすると息子がおとなしくなってしまうほどで、親子で楽しく見ている。これからも新しいダンスを期待している。

○　私も「みいつけた！」のするめのダンスを見ながら、子どもと一緒に踊っている。これからも楽しみにしている。

○　「びじゅチューン！」を見ている。映像作家の井上涼さんが有名な絵画を紹介し、絵画の特徴をうまくデフォルメしてアニメの映像にしている。視覚的にも聴覚的にもインパクトのある番組だが、有名な絵画が取り上げられるのでアカデミックな雰囲気もある。これからもぜひ続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

ことし５月の「ひろしまフラワーフェスティバル」で、井上涼さんを招いて「『びじゅチューン！』ライブ in 広島」というトークイベントを開催した。これに合わせて４月３０日(日)から５月３日(水)にかけて総合テレビとＥテレで、広島県の厳島神社をイメージした「厳島ライフセーバー」と、山口県にゆかりのある画家・雪舟の国宝「山水長巻」を取り上げた「通勤フロム山水長巻」を中国地方に向けて再放送した。

○　６月１０日(土)ＥＴＶ特集「“原爆スラム”と呼ばれた街で」を見た。広島市の爆心地近くの川岸にできた、いわゆる原爆スラムを取り上げたドキュメンタリーで、かつてスラムに住んでいた人たちを丁寧に追っていた。驚いたのは、原爆スラムの火災のニュース映像にたまたま映っていた泣き叫ぶ女性を突き止めて取材をしていたことで、放送ならではの手法だった。当時のバラックの間取り図を示して記憶を引き出していたのも興味深かった。ここには戦前・戦中に陸軍西練兵場などがあったが、それは取り上げられていなかったのが残念だ。被爆後に権力の空白ができてこの広大な官有地がスラムになり、その後高層アパートが建ったいきさつがなかったので、ぜひ続編を制作してほしい。ディレクターが、川岸で花見をしていた人々に「ここに昔スラム街があったことを知っているか」と尋ねたが知らないと回答する人がほとんどで、記憶が薄れつつあることがよく分かった。中にはスラム街があったことを、「ほんまかどうか。信じるか信じないか、都市伝説みたいなもんよ」と話していた人がいたが、そのやりとりをそのまま放送していたことが意外だった。

（ＮＨＫ側）

原爆スラムが映し出された「仁義なき闘い」の発砲シーンがあって、やくざが住んでいるといった印象を受けたが、実際は心優しい人たちや日本国籍ではない人々が身を寄せ合って暮らしていたことが分かった。この番組では実際にスラム街に住んでいた人たちを追って、現在の生活を丁寧に描いていた。当時は原爆スラムと呼ばれていたが、経済的に豊かでカラーテレビやピアノを持っている人もいたことが意外だった。かつて原爆スラムに住んでいた人が、「生活は大変だったが、自分だけが貧しかったわけではないし、活気もあったしあのころの方が楽しかった」と話していたことを聞いて、心がほっとした。

○　６月１０日(土)ＥＴＶ特集「“原爆スラム”と呼ばれた街で」を見た。原爆スラムには、国の失業対策事業で働いていた、いわゆる「失対(しったい)」の女性たちが、助け合いながら明るく暮らしていたことが印象的だった。昭和２３年ごろは広島市中区基町の旧陸軍野砲部隊の跡地に原爆孤児の児童養護施設があったが、そういった事象が取り上げられなかったことは残念だった。昭和２０年から３０年ごろまでの「空白の１０年」の原爆スラムが描かれていれば、原爆投下後の悲惨な状況下で人々が懸命に生きたことがもっと伝わり、この番組が貴重な記録になったのではないか。次の番組を期待している。

（ＮＨＫ側）

この番組は、以前広島局に在籍していたディレクターが制作した。当時から原爆問題に取り組んでいて、東京に転勤後もこのテーマを丁寧に追っている。戦後１０年間は被爆者の援護や支援が置き去りにされて「空白の１０年」と呼ばれているが、都市を再生していく過程にも同じような状況があったのかもしれない。広島にある地域の放送局として、そういった点も取材していきたい。

○　「ふるカフェ系 ハルさんの休日」を楽しみに見ている。古民家を作り替えたカフェを紹介しながら、昔の建築技術や建築様式を分かりやすく解説していた。ややぎこちない部分があったが、ドラマチックに作られた番組で面白かった。

○　５月２３日(火)きょうの健康「前立腺肥大症」を見た。前立腺肥大症は男性の５０代で３０％、７０代で７０％の人がかかっていることを伝えていた。前立腺肥大は多くの人に見られる症状で、国民的な病気であることがよく分かった。

○　６月４日(日)ＢＳ１スペシャル「知られざるトランプワールド～３６０°カメラが探訪する新大統領」(ＢＳ１ 前 0:00～0:50)を見た。この番組には通常のカメラに加えて 360°全方位を撮影できるカメラが使われていたが、この機材を紀行番組などで活用すれば、面白くなるのではないか。

（ＮＨＫ側）

360°カメラには大きく分けて二種類あり、一つは、カメラが１台でその周りをレンズで囲ったもので解像度はあまりよくない。もう一つは、広い視野角を持つカメラを複数台組み合わせて同期させることに

よって360°の動画を撮影できる仕組みになっている。後者は放送機器展示会などでブームとなっており、本部でも数式の導入を進めている。紀行番組などで活用すればよいのではないかという意見を頂いたが、撮影時にカメラが揺れると、特に幼い子どもは映像を見て酔ってしまう可能性があるので、細心の注意を払う必要がある。

○　５月１３日(土)からＢＳプレミアムで再放送している「特集ドラマ・クロスロード」を見ている。主演の舘ひろしさんと神田正輝さんのベテラン俳優の演技が渋くて印象的だった。最近、穏やかなドラマが多い中でこのドラマは異色でよかった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年５月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木）、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず放送番組モニター報告について説明したあと、「平成２８年度中国地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について報告があった。

続いて、放送番組一般について活発に意見を交換した。その後、視聴者意向の報告、６月の番組編成の説明がそれぞれ行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安井　　弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科長）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	久保田典男	（島根県立大学総合政策学部准教授）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	島田　　斉	（福山電業株式会社　代表取締役社長）
	杉原弘一郎	（一般財団法人 米子市文化財団理事長）
	中澤さかな	（道の駅「萩しーまーと」駅長）
	中村　寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古矢　博通	（公益財団法人 倉敷スポーツ公園理事長）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人 ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　４月２１日(金)フェイス「島の命を守りたい～瀬戸内 変わる離島医療～」を見た。神奈川県からやってきた医師の次田展之さんが、飛行機と船を操縦して診療に向かう場面では、仕事と趣味が一緒になっているようで最初は違和感を持ったが、いくつもの離島を対象に拡大し、経営の分岐点となる 1,000 人程度の住民を診ることで、行政に頼らずに個人開業医として成り立つことを知って、これからも頑張ってほしいと思った。笠岡諸島で民生委員や婦人会の力やタブレット端末を活用することで高齢者の健康状態を把握する仕組みについては、自助努力によって離島診療を支えるよいモデ

ルだと思った。

（ＮＨＫ側）

フェイス「島の命を守りたい」では、離島で働きたいと考える医者がいてようやく、島の住民の命が守られていることを伝えた。笠岡諸島の事例では、行政側でも医者がいなくなった場合にはどのように住民の命を守っていくかという検討を始めていることを紹介した。瀬戸内の離島医療の現状を紹介できたのではないか。

○　４月２８日(金)フェイス「ふるさとの星になれ～プロバスケ１部昇格への闘い～」は、バスケットボールＢリーグの概要や島根スサノオマジックと広島ドラゴンフライズのＢ１昇格に向けた取り組みがコンパクトにまとめられていた。スポンサー集めと観客動員の増加に向けた取り組みが紹介されていたが、チームがどのように地域に溶け込もうとしているのかといった部分にも焦点を当ててほしかった。

（ＮＨＫ側）

フェイス「ふるさとの星になれ」は、昨年島根県と広島県のプロバスケットボールのチームがＢ１昇格をかけてプレーオフを争い、地域に根付かせようとしている取り組みを取材した。島根スサノオマジックがどのようにファン層を広げて、地域に愛されていくかといった点については、今後も伝えていきたい。

○　フェイス「ふるさとの星になれ」を見た。島根県のスサノオマジックがＢ１に昇格することが決まりたいへんうれしかった。これからも頑張ってしっかりと島根県をＰＲしてほしい。

○　５月１２日(金)フェイス「“共感集め”で地域を変えろ！」は、クラウドファンディングへの関心が高まっている中での放送で、とてもタイムリーだった。番組では広島県大崎下島のレモン農家に焦点を当て、クラウドファンディングを支える運営会社の取り組みや農地を再生するプロジェクトのプロセスを分かりやすく伝えていた。この例では、集めた資金を耕作放棄地の整備に充てることにしていたが、最大の課題はプロジェクトを実行する担い手にあると思った。

（ＮＨＫ側）

この番組では、大崎下島の農家を例に、クラウドファンディングの仕組みや課題を伝えた。目標としていた資金額を達成後、農家の方が「すごい責任を感じる。いちばん最初に思うのは責任」と言っていたが、人のつながりで支えられる新たな地域おこしの可能性を示すことができたと思う。実際に畑を再生させていくには人がカギになるが、新たな課題も出てくるかもしれない。今後はそういった部分も取材を続けていきたい。

○　フェイス「“共感集め”で地域を変えろ！」を見た。クラウドファンディングは運用会社にマージンを支払ったり、返礼品にもコストがかかったりするので、全体の収支がどうなっているのか気になった。

○　私もこの番組を見た。初めのうちは、クラウドファンディングを怪しいものだと思っていたが、この番組で仕組みやプロセスがよく理解できた。ふるさと納税の問題を指摘されている中で、返礼品ではなくプロジェクトに対する「共感」にウエイトが置かれていることを知り、いい制度だと感じた。一方で、クラウドファンディング運営会社の手数料がどのくらいになるのか気になった。アメリカではいろいろな問題が発生していると聞いたので、陰の部分についても取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

クラウドファンディングについては、今回番組で紹介したこと以外にも、伝えることはたくさんあると考えている。いまブームになっていて、これから陰の部分や課題なども出てくると思うので、機会を捉えて番組やニュースなどでも取り上げていきたい。

（ＮＨＫ側）

クラウドファンディングは、この５年で１５倍に拡大している成長分野だ。怪しげな業者がいることも事実で、そういった部分も解説できればよかったかもしれない。今回はクラウドファンディングの仕組みや現状を視聴者の皆さんに知っていただきたいと考えて制作した。指摘のあった負の側面については、アメリカでは、資金は集まったものの人がいなくてプロジェクトを進められずに訴訟になったり、支援者に返礼品を出せなかった場合に備えて保険ができたりしている。こ

のテーマについては、折を見て取り上げていきたい。

○　「フェイス「“共感集め”で地域を変えろ！」は、その地域にあるヒト・モノ・カネや情報などをうまく組み合わせて、新しい価値を創造することが重要だということを示していた。プロジェクトを成功させようという信念を持った人と支持者がいることが大切だ。これまで難しいと思われていた資金調達に新しい手法が加わることで、この仕組みを活用して知恵と情熱を出していけば、よい地域おこしになるのではないか。全体的によい番組だった。

○　４月２２日(土)から毎週放送している「√るーと５ｍｉｎ．」～笑う門には福来る！鳥取 復興の町を行く～(総合 後 0:40～0:45 鳥取県域)を見た。昨年地震の被害を受けた鳥取県倉吉市を３回も訪問したことを知って温かい気持ちになった。ことしから４３分サイズの「√るーと high↑²」が５分サイズの「√るーと５ｍｉｎ．」になってもの足りなかった。旅人のマンボウやしろさんが強い口調で、鳥取県のどこかで観光大使になりたいと言っていたのが愉快だった。

（ＮＨＫ側）

「√るーと５ｍｉｎ．」は、これからもマンボウやしろさんの鳥取県に対する片思いにも似た愛情をテーマに制作していきたい。

○　４月１日(土)ＹＡＭＡＧＵＴＩＣ「社会にこぎだせ！～２２歳カヌー選手の挑戦～」(総合 前 10:55～11:20 山口県域)に出演していた青年は、最初は頼りなく見えたが、だんだん自分の気持ちを話すようになり、行動が変わっていく様子が丁寧に取材されていた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、３月２１日(火)に放送した「人生デザイン Ｕ－２９」～カヌー選手・飲食店経営～を再編集したもので、出演していた青年とあまり年齢が変わらない若いディレクターが制作した。目標を持って地方に移り住み、試行錯誤している若者の姿をそのまま描いた。引き続きこの青年を追いかけていきたい。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を見て、脚本家の岡田惠和さんは心温まるドラマを書く人だと感心した。「ひよっこ」には個性豊かな女優がたくさん出ていてこれからも

見ていきたいと思うが、いい人たちしか出てこない部分は現実とは異なっているようでやや気になった。

（ＮＨＫ側）

岡田さんの脚本は、心をつかむようなセリフがさまざまな場面に出てくる。岡田さんが連続テレビ小説の脚本を書くのはこのドラマが３度目になる。現在、東京編を放送中で職場の女子寮で６人の女の子がやりとりするシーンがあるが、前回脚本を担当した「おひさま」でも、主人公の少女時代に「白紙同盟」の女の子３人組の場面が人気だった。岡田さんは女の子どうしのコミュニケーションを描くことがうまい脚本家だと思う。「ひよっこ」の雰囲気は確かにほのぼのとしていて、人のよいキャラクターが多く出ているが、これから新たな展開があったり登場人物も加わったりするので、引き続き楽しみにしていただきたい。

○　「ニュースウオッチ９」を毎日欠かさず見ている。「ニュースチェック１１」から有馬嘉男キャスターと桑子真帆アナウンサーが移って、さわやかで元気があってよい。特に有馬キャスターが自分の言葉でコメントしているのがよい。一方「ニュースチェック１１」は、スポーツ担当の大成安代アナウンサーと気象担当の三宅恂子キャスターが元気だが、全体的におとなしめでややもの足りない。

○　５月１０日(水)あさイチ「ピカピカ☆日本」で、広島の手縫い針を取り上げていた。広島産が国内シェアの９割を占めていることや、焼き入れのしかたで針の強度が変わることなどを、とても分かりやすく説明していた。

○　４月２６日(水)ガッテン！「大型連休の前に！交通事故から家族を守りたいＳＰ」を見た。高速道路で自動車を運転する場合に注意すべきポイントをよく伝えていた。司会の立川志の輔さんと小野文惠アナウンサーとの掛け合いが絶妙ですばらしい。

○　４月２３日(日)目撃！にっぽん「高校生ワーキングプア　旅立ちの春」は、両親の離婚後父親に引き取られ、兄弟が高校に入学した後父親が亡くなり、兄がバイトをして２人で生活している様子を丁寧に映し出していた。卒業証書を羽織はかまを着た姿でもらうシーンがとても感動的だった。また、高校３年生の女の子が経済的な事情で大学に行くことができず専門学校に行くという場面では、現在の格差社会をきちんと描

いていた。

○　５月６日(土)ＮＨＫスペシャル「日本国憲法　７０年の潮流～その時、人々は～」は、ＮＨＫが 1962 年から１４回実施してきた世論調査のデータを軸に憲法の潮流をたどっていた。これまでの憲法第９条を中心にした議論だけではなく、非正規雇用や雇用格差の問題、子育てといった事柄も位置付けてほしいという意見や、環境の問題を憲法に書き加えるべきだという議論もあった。憲法に関する議論を取り上げること自体はよいが、改正を推進する人には個人の自由や基本的人権を侵しかねない意見を持つ人もいるので、そうした影響も含めて正確に伝えてほしい。番組の最後では、日本国憲法の施行から７０年が経過して、今後どのような道を歩んでいくか憲法に向き合う国民の一人一人に課せられた未来への責務だ、と結んでいた。いつものナレーションだとも思ったが、今回は説得力があった。

（ＮＨＫ側）

憲法記念日の特集番組については、ことし施行から７０年を迎え、４月３０日(日)ＮＨＫスペシャル「憲法７０年　“平和国家”はこうして生まれた」と、５月６日(土)ＮＨＫスペシャル「日本国憲法　７０年の潮流～その時、人々は～」で、２回にわたって放送した。４月３０日(日)には現在の日本国憲法の成り立ちをドラマ仕立てで再現し、５月６日(土)には憲法が今どうなっているかということを中心に伝えた。現在、憲法改正の機運が盛り上がっているようにも思われているが、ＮＨＫの最新の世論調査では憲法改正の必要はないという回答が増えていることを説明し、憲法改正を推進する立場の方とそれに反対する今の若者たちの動きにも触れていた。憲法の問題については、今後も国民で議論ができるように伝えたい。

○　５月６日(土)ＥＴＶ特集「暮らしと憲法 第１回 男女平等は実現したのか」を見た。憲法をはじめ、パートタイム労働法、男女共同参画基本法、育児・介護休業法、夫婦の姓を規定している民法などを分かりやすく説明していた。男性と同じような働き方をする女性だけが平等に扱われるのでは差別はなくならないので、そういった点にも着目してほしいというコメントにはなるほどと感心した。

（ＮＨＫ側）

憲法の問題については、国民に議論を広げて国民の暮らしに密接な

関係あることを知ってもらう必要があると考えている。そのためにも、総合の「ＮＨＫスペシャル」といった番組だけではなく、Ｅテレの番組などでも取り上げていくことにしている。

○　ＮＨＫスペシャル「日本国憲法　７０年の潮流～その時、人々は～」とＥＴＶ特集「暮らしと憲法」を見た。とてもよかった。国会では、憲法改正について白黒をはっきりさせようといった議論が続いているが、本来は丁寧に議論を積み重ねていくことが求められると思う。都道府県単位や地域ごとに憲法改正に関する考え方を聞いてみることで、本当の気持ちが分かってくるのではないか。今後も期待したい。

（ＮＨＫ側）

憲法改正の問題については、これからますます関心が高まっていくと思うので、引き続き丁寧に伝えていきたい。

○　５月７日(日)ＮＨＫスペシャル「世紀の発見！日本の巨大恐竜」を見た。北海道むかわ町で発掘された、世界でも珍しい全身骨格の化石を、ＣＧを駆使したりこれまでの番組映像などを活用したりして分かりやすく説明していた。番組には実際に化石を鑑定した研究者が出演していたが、当事者以外の専門家の客観的なコメントがほしかった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「世紀の発見！日本の巨大恐竜」は“Ｎスペ”としてはエンターテインメント性の高い作りだった。指摘については、今後制作現場でも意見が交わされていくと思う。

○　５月１３日(土)ＮＨＫスペシャル「巨大水中洞窟を潜る 絶景 オルダ“水の宇宙”」を見た。ウラル山脈の秘境にあるオルダ水中洞窟の知られざる全容に迫る番組だった。マイナス４０度という生命の危険と隣り合わせの自然環境の中で潜水カメラマンが撮影に挑んでいた。１年前から撮影の準備をしていたということにびっくりした。映像がとてもきれいだったことが印象的だった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「巨大水中洞窟を潜る 絶景 オルダ“水の宇宙”」の水中映像については、本部にある報道局映像取材部の潜水グループ

に所属する女性カメラマンが撮影した。

○　５月４日(木)国民アンケートクイズ リアル日本人！「子ども 子育て」(総合 後10:00～10:48)を見た。最近は孫の育児を学ぶイクジイ講座があって、楽しく参加していることを知った。こうした取り組みは全国に広がってほしい。イクジイ・イクバアが子ども夫婦に頭にくることは何かというアンケートでは、都合を考えずに子どもを預けに来るという回答が多く、参考になった。意外だったのは、小学３年生以下の子どもがいる父親が、自分自身をイクメンだと受け止めている人よりも、奥さんが夫をイクメンだと認めていると回答した人が多かったことだった。夫をおだてながらうまくやっていることが分かった。

（ＮＨＫ側）

子育てや男女共同参画といったテーマについては、総合の番組だけではなく、先ほど意見を頂いた「ＥＴＶ特集」などでも取り上げているが、現状を紹介するだけではなく、今後どのように状況を改善していくかを提案することも大切だと感じている。

○　５月４日(木)「おげんさんといっしょ」(総合 後10:50～11:50)がとても面白く、子どもと一緒にダンスをしながら見た。次回もぜひ放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

「おげんさんといっしょ」は、次回も放送してほしいという要望が多く寄せられている。

○　５月３日(水)「究極のおもてなし～天下を動かした一服の茶～」(総合 前 8:15～9:00)を見た。現在にも通じる茶のもてなしの極意を探る番組で、たいへん楽しかった。

○　最近の朝鮮半島情勢に関するニュースは、抑制的な報道で好感が持てた。ＮＨＫ以外では、アメリカの原子力空母カール・ヴィンソンが朝鮮半島に向かっているというニュースが連日放送されて、北朝鮮に対する攻撃をあおっているようだった。朝鮮半島の情勢については、日本国内で密接に関係する岩国基地や嘉手納基地などの動向についても詳しく伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

ほかのニュースと同じように朝鮮半島の情勢についても、正確な情報に基づいて報道することが重要だと受け止めている。Ｊアラートが作動し日本に落下の可能性がある場合には、ＮＨＫでは全チャンネルの番組を中断して速やかに伝えることにしている。

○　５月７日(日)日曜美術館「器のむこうに人がいる～茶の湯が生んだ至高の美～」で、若者が新しいタイプの茶室で茶を楽しんでいる様子が紹介されていた。茶は作法や器だけではなく、飲むことが大事だということをきちんと伝えていたのがうれしかった。

○　４月２２日(土)ＳＷＩＴＣＨインタビュー 達人達(たち)「福島智×柳澤桂子」を見た。バリアフリー研究者の福島さんと生命科学者の柳澤さんの哲学論争のような対話で、２人の深い思慮が感じられるすばらしい番組だった。

○　４月２２日(土)ＥＴＶ特集「獄友たちの日々」を見た。布川事件と足利事件で無期懲役を言い渡されたが、再審によって無罪が確定した３人のえん罪被害者の物語で、とても迫力があった。えん罪が人をどれほど深く苦しめるかということがよく分かった。日本の刑事司法に警鐘を鳴らす、とても興味深い番組だった。

○　４月２９日(土)ラン×スマ～街の風になれ～「ガチ・ユル走でフルに挑む」を見た。スポーツ科学に基づいたガチ・ユル走を取り入れることにより、糖や脂肪の消費を減らし持久力を保ちながら走ることができることを分かりやすく解き明かしていた。私も朝ランニングをしているので、このような有益な情報は今後も伝えてほしい。スマイルランナーの高樹リサさんがガチ・ユル走を取り入れて鳥取マラソンに出場したが、田村亮さんのベストタイムを上回ったことについて、スタジオでつまらないコメントがあったことが気になった。

（ＮＨＫ側）

「ラン×スマ～街の風になれ～」は、高樹リサさんと田村亮さんがライバルという構図で、高樹さんが鳥取マラソンに出場するという内容だった。スタジオでは、高樹さんが鳥取マラソンで好タイムを記録したことについてやりとりがあったが、互いに切磋琢磨し、走りを向上させていくための演出だと理解していただきたい。

○　５月３日(水)地球タクシー「ニューヨークを走る」(ＢＳ１ 22:00～22:49)が面白かった。ニューヨークでタクシードライバーをしている外国人が自由を求めてアメリカにやってきたが、トランプ政権の誕生後、また自由を失ったと語っていた。ややストーリーができすぎているような印象を持ったが、タクシードライバーとの会話を通じて、現在のアメリカの姿をうまく伝えていた。

○　５月１０日(水)「失われた色を求めて～植物染め・伝統１００色を今の世に～」(ＢＳプレミアム 後8:00～9:29)を見た。染織史家の吉岡幸雄さんがイギリスのヴィクトリア＆アルバート博物館から植物染めのシルクを制作して欲しいという依頼を受けて、３年間かけて染物の原料を探し、何度も植物染を試して届けるという番組だった。日本には紺色や水色、あさぎ色など青色だけでいくつも名称があって、色彩の表現の豊かさを伝えていた。日本人自身が日本のよさを忘れてしまっていることを改めて知るとともに、染料の原料となった植物が絶滅するかもしれないということにも気付かされた。映像がとても美しく、永久に保存したくなるような番組だった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

平成２９年４月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島放送局において、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委　　員　久保田典男　（島根県立大学総合政策学部准教授）
坂本トヨ子　（株式会社サカモト　代表取締役）
島田　　斉　（福山電業株式会社　代表取締役社長）
杉原弘一郎　（一般財団法人　米子市文化財団理事長）
中澤さかな　（道の駅「萩しーまーと」駅長）
中村　寿男　（有限会社中村茶舗 代表取締役）
納所裕美子　（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
古矢　博通　（公益財団法人　倉敷スポーツ公園理事長）
渡部　朋子　（ＮＰＯ法人　ＡＮＴ-Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ理事長）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　３月１７日(金)フェイス「置かれた場所で咲く花に～渡辺和子さんとの“対話”～」を見た。「置かれた場所で咲きなさい」という言葉は、何かを諦めるということではなく、自分が笑顔になって周囲の人々を幸せにすることだと教えてくれた。非常に感銘を受けた。

○　「フェイス」を見て感動した。渡辺さんの本の中にある「神は決して君の力に余る試練を与えない」、「置かれた場所で咲きなさい。咲けない時は根を伸ばしなさい」という教えが心に刺さった。とてもよかった。

（ＮＨＫ側）

当初は、最近９０歳以上の人が書いた本が売れているということから取材を始めた。その後出版社の協力を得て、どういった人がどのような背景で感銘を受けたかということを一つ一つ丁寧にたどることができるようになったため、渡辺さんの本に焦点を当てた。読者それぞれに深く取材することができたので、共感できる内容になったのではないか。

○　４月３日(月)「いちおしＮＥＷＳとっとり」を見た。３年前に開校した私立の中高一貫校の学習をリポートで取り上げていた。新指導要領のアクティブラーニング、自ら課題を発見して解決する力を育む学習法を分かりやすく説明し、中学２年生の技術・家庭の授業に若い副校長が中心となって取り組む姿を紹介していた。実際に生徒が図書館に行き、来館者がどんなことに不自由を感じているかという議論を行い、材料を購入して椅子を製作した過程をプレゼンしていた。中学２年生とは思えないすばらしい発表に感心した。新指導要領のＩＣＴやプログラミングなど、地域とともに育む学校教育が盛り込まれているが、放送を通じて学校教育の現状を知ってもらうことができた。これからは学力や技能を身につけるだけでなく、主体的に課題を解決する力も求められるようになるので、このような放送を増やしてほしい。

（ＮＨＫ側）

このリポートは、学校が積極的に導入しているアクティブラーニングについて、若いディレクターが丁寧に取材した。今話題のアクティブラーニングがどういうものかよく伝わったのではないか。今後教育の分野にも光を当てていきたい。

○　４月１日(土)「もぎたて！スペシャル」(総合 前 10：55～11：25 岡山県域)を見た。岡山市は待機児童の基準を見直したことで、２年間で 729 人と全国ワースト２位になった。番組独自のデータなども示しながら、保育園が大幅に不足している状況を解説し、具体的に待機児童を抱える夫婦の切実な声や保育士不足の現状を紹介していた。待機児童問題の重要性にクローズアップしており、非常によい番組だった。岡山市の大森雅夫市長が出演し、保育士の確保について、独自に職員の給料を改善したり、先進的な事例を参考にしたりしたいと言っていたが、即効性のある解決策は示されなかった。平日午後６時台の「もぎたて！」ではこれまでも待機児童について問題提起を行っていたので、引き続き取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

待機児童の問題は、とかく首都圏や近畿圏などの人口の多い地域で起きていると思われがちだが、基準を見直したことで岡山市の実態が明らかになった。岡山でこの問題が顕著になっていることについては、今年に入ってから平日午後６時台の「もぎたて！」で継続的に伝えてきた。これからも取材を続けていきたい。

○　「もぎたて！スペシャル」を見た。待機児童の問題についてのアンケート結果や保育園の改革の事例などがよくまとめられていた。大森市長が出演して自らの考えを述べていたので、待機児童の問題を真剣に考えていることが伝わったのではないか。保育士の人手不足については、保育士の資格を持ちながら就業していない人を活用することも検討されているが、質が下がると受け止めている人もいるようだ。行政はとかく数値を改善しようとしがちだが、子育てをしている世代は、共働きをしないとなかなか生活できないという実態や、岡山が全国で待機児童数２位になった理由についても取材をしてほしい。全体的にすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

「もぎたてスペシャル」は３０分という限られた放送時間で、待機児童問題の主要な部分については伝えることができたと思う。少子化対策については、幼稚園と保育所の一元化を図る政策や“潜在保育士”を活用するといった議論もあるが、理解を得られていない部分もあるので、今後も取材を続けていきたい。

○　３月３１日(金)@ｏｋａｙａｍａ「レシピ 私を作ったごはん」(総合 後８：15～8：43 岡山県域)を見たが、期待外れだった。ゲストで出演していた辰吉丈一郎さんは“浪速のジョー”と呼ばれて大阪ではよく知られているが、岡山県で暮らしていたのは中学までで岡山の人という印象はあまりない。父親の辰吉条二さんが丈一郎さんを男手ひとつで育てたということだったが、親子の関係についてあまり説明がなかったため疎遠だったようにも感じられた。番組で紹介された料理は、実際には具が多いみそ汁で、特別な料理法といったものはなかった。「レシピ 私を作ったごはん」というタイトルから、岡山特産の食材や独特の調理法を紹介して、登場人物にどんな影響を与えたのかというストーリーになると期待していたが、そうではなかった。

（ＮＨＫ側）

この番組を今後定着させるためには、岡山らしさが必要だと感じている。今回は料理を作る部分に時間を多く割いたために、指摘のあった点についてはうまく伝えられなかった。頂いた意見を参考にブラッシュアップしていきたい。

○　「@ｏｋａｙａｍａ」を見た。辰吉さんの父親が作ったごはんということで、父親の粂二さんの考え方や気持ちなどをもう少し知りたかった。番組の中にクッキングタイムがあったが、料理を作るのであれば、レシピを基にプロの料理人が工夫をするなど、視聴者が作ってみたいと思わせるものを取り上げてほしかった。

（ＮＨＫ側）

この番組については、番組モニターでもクッキングに関する意見が多かった。料理のレシピについて役に立つ情報を伝えてほしいという意見については検討したい。

○　新年度の番組改定で多くの番組が変わったが、重要なニュースが伝えられなくなっている。先日ネパールに行った時に、アメリカ軍がアフガニスタンのＩＳが支配している地域で超大型爆弾を投下したが、ネパールでは国中の人が知っていた。このニュースは日本でも伝えられたと思うが続報がなかった。公式的な発表ではＩＳの７７人が亡くなったと伝えていたが、被害はそれだけではないはずだ。アメリカが広島に原爆を投下したときも、世界の人々には詳しくは伝えられなかったのかもしれない。核兵器に次ぐ威力のある爆弾が落とされたことは重大なニュースだ。本当に国民に伝えなければならないニュースは、きちんと伝えてほしい。世界の情勢が厳しくなっている中で、ＮＨＫのニュースが問われている。また、文部科学省の天下りの問題や、森友学園のニュースについても続報が不十分で、批判的な内容が少ない。

（ＮＨＫ側）

アフガニスタンの国内でＩＳが支配する地域にアメリカ軍が超大型爆弾を投下したニュースは、「ＮＨＫニュースおはよう日本」で外電を引用して伝えた。そのほかのニュースに対して頂いた意見も本部に伝える。

○　３月１９日(日)ダーウィンが来た！生きもの新伝説「田んぼが大好き！里山の珍魚ドジョウ」を見た。この番組でドジョウはすごい生物だということが分かった。通常はエラで呼吸をしているが、酸素が少ない状態では口を水面に出して直接空気を吸い込んで、腸から酸素を取り込むこともできる。さらに田が干上がった時には、土に潜って自分の体のヌルヌルした粘液の層に土の中の水分に含まれる酸素を取り込んで生き伸びるということも分かった。ドジョウが泥の中に潜る場面は、ジェルを使って分かりやすく紹介していた。

（ＮＨＫ側）

　これは、松江局のディレクターが島根県安来市の安来節・どじょうすくい踊りをきっかけにドジョウに関心を持って生態を調べたことから、番組の企画・制作につながった。撮影期間も１年ほどかかっている。奥出雲町に小さな田んぼを再現し地道に実験を行い、ドジョウの生態の映像表現を工夫した。特にドジョウが潜るシーンは、分かりやすく紹介するため、局のスタジオ脇で透明のジェルを泥に見立てて再現し、撮影した。視聴者からの反響も大きく、映像が分かりやすかったといったという感想も寄せられた。今後もさまざまな観点から題材を探し、分かりやすく紹介するよう努力したい。

○　３月１２日(日)サキどり「ドクターパイロット 島の命によりそう」を見た。離島で医療がないところで生活することの厳しさや老人問題などがストレートに描かれていた。医師の次田展之さんが船と飛行機の免許も持っているという紹介があったが、荒波を船で進むシーンはリアリティーがあった。次田さんがいなくなったら誰が継ぐのかという不安や経営の課題、法的な問題などが紹介されていたが、何とか続けてもらいたいと思った。百島には海上タクシーがあるので、船舶免許がない医師も活動できるのではないか。

（ＮＨＫ側）

　「サキどり」に出演していただいた次田さんは、行政の補助金は全く受け取っておらず、個人開業医として独自のビジネスモデルで経営している。彼は冒険心がとても強く、数年後にはアフリカの辺地医療にも携わりたいという気持ちもあり、次田さんがいなくなったらどうするのかという課題が残っている。４月２１日(金)に放送する「フェイス」は、離島医療における課題と取り組みについて焦点を当てた。

次田さんだけではなく、ほかの事例も取り上げているので、ぜひご覧いただきたい。

○　３月２８日(火)にっぽん紀行「ふるさとは情けの島～山口　春の瀬戸内海～」を見た。島ではさまざまな事情で親元を離れた子どもたちを引き受けてきたが、そのきっかけのひとつとなった歴史的背景については、この番組で触れられていなかった。ややもの足りなさも感じた。

（ＮＨＫ側）

３０分という放送時間で歴史的背景までを誤解のないようにきっちりと描くことは難しく、今回は児童福祉施設の移転によって子どもたちがいなくなることが決まった島の日々に焦点を当てることにした。

○　「にっぽん紀行」を見た。周防大島町に属する情島の小中学生は、さまざまな事情で親元を離れて寮に暮らしている。その寮が移転することになり、島の人たちと別れなければならない子どもたちの寂しさをよく映像化していた。卒業生の若い女性が登場するのもいい。ただ、情島と周防大島を結ぶ連絡船がどうなるのかといった心配ごとが多々ある。今後も長い目でウオッチしてもらい、続編を期待したい。

○　４月１日(土)ＮＨＫスペシャル「足元の小宇宙Ⅱ　絵本作家と見つける“雑草”生命のドラマ」を見た。８６歳の絵本作家・甲斐信枝さんが近所の雑草をスケッチしながら雑草と語るという内容で、ゆったりとした番組だった。「ＮＨＫスペシャル」には“堅い”イメージがあって今回のような番組はあまり多くはないが、個人的にはこうした番組があってもいいと思った。年を重ねても、甲斐さんのような生き方をしたいという気持ちになった。

○　３月２９日(水)認知症　ともに新しい時代へドキュメンタリードラマ「母、立ちあがる」(総合　後10：00～10：49　全国)を見た。この番組は、ドキュメンタリーの中にドラマを入れるという構成で、認知症についてよく分かった。認知症になった人が「認知症はこんなもんです」と語るシーンを見て、自分にも偏見があったことに気が付いた。病気になった人の心を理解することにも役立つので、認知症などのようなテーマはもっと掘り下げてほしい。

（ＮＨＫ側）

認知症になった人とともにどのように生活していくかということや、認知症を医学的に検証して治療方法を伝えることは、ＮＨＫの大きなテーマのひとつで、これまでも「ＮＨＫスペシャル」などで取り上げている。今回はドラマをはさみながら分かりやすく伝えた。今後もいろいろな意見を頂いて番組作りに反映させていきたい。

○　４月１２日(水)探検バクモン「世界を制する香川の巨人」を見た。８３歳の名物社長・敷山哲洋さんが経営する会社を紹介していた。爆笑問題の２人とサヘル・ローズさんが、沖縄県にある美ら海水族館などの巨大水槽を作る香川県の会社を訪問して、独特で素朴な質問をする面白い番組だった。サヘルさんが「アクリル以上に透明感のある会社ですね」と話していたのが印象に残った。

（ＮＨＫ側）

この番組は、以前は「爆笑問題のニッポンの教養」というタイトルで、爆笑問題の２人が大学教授などの研究者を訪問してアカデミックなものを紹介していた。「探検バクモン」に変わってからは先端企業の取り組みなども取り入れて疑問を分かりやすく解き明かしている。この番組に出演しているサヘルさんは非常に賢い人で、分かったふりをせずに質問をして答えを引き出している。視聴者と番組をつなぐ役割を果たしているのではないか。

○　４月１７日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「独り、山の王者に挑む～猟師・久保俊治～」は心を動かされた。久保さんという猟師の物語としても、人としての生き方としてもとてもすばらしかった。同行したカメラマンなどのスタッフが少人数だったので、命がけだったと思う。

○　連続テレビ小説「ひよっこ」を見ている。番組のタイトルバックの映像がとてもよい。多くの人が驚くような映像だと思う。

（ＮＨＫ側）

連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバックは視聴者からの評判がよい。昭和の時代感もよく出ている。連続テレビ小説は月曜から土曜日まで決まった時間に放送され、視聴者にご覧いただく機会も多い

ので、担当者が毎回悩みながら制作している。

○　「ブラタモリ」が面白い。４月８日(土)には清水寺という、誰もが知っている場所を掘り下げていた。京都に５年間暮らしていたが、今回取り上げた内容は知らないことも多く、とても奥の深い番組だった。

○　４月１５日(土)ブラタモリ「＃７０　京都・祇園」を見た。京都にはよく行くが、祇園や八坂神社がどのように変わっていったかということはあまり知る機会がないので、とても面白かった。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」は、以前広島市や宮島を取り上げた時も、地元に住んでいる人にもあまり知られていないことが紹介されていた。今後も期待してほしい。

○　３月２１日(火)人生デザイン　Ｕ－２９「カヌー選手・飲食店経営」を見た。若いカヌー選手が練習を続けるために、近くにレストランを借りて経営するというストーリーだった。いい条件で店を借り、メニューを開発して客に来てもらうように工夫するということは、取り立てて紹介するような話ではない。青年とカヌーとの関わりをもっと描いてほしかった。

（ＮＨＫ側）

カヌー選手の回では、カヌーの練習と食堂経営の両立をしようと試行錯誤している若者の姿をそのまま描いた。

○　４月１１日(火)人生デザイン　Ｕ－２９「木材販売会社経営」を見た。外資系の企業で活躍していた２８歳の青年が、鳥取に戻って６９歳の一級建築士と出会い、樹齢百年以上の木から切り出した“一枚板”を使った板の販売会社を立ち上げた。苦しい経営の中でも安売りをするだけではなく、必要としている人に相応の価格で買ってもらう本当の商売を学んでいく若者の姿を紹介していた。とてもよいテーマで、世の中に伝えていく価値があると感じた。

（ＮＨＫ側）

「人生デザイン Ｕ－２９」は、若い人たちに向けて人生設計のヒントとなる題材を提供する番組だ。放送後、視聴者から「もう一度目標に向かってチャレンジしたい」という反響も寄せられた。若者に希望を持ってもらえる番組になったと思う。

○　３月２２日(水)ねほりんぱほりん「最終回！？新たに見たい！その後を知りたい！リクエストＳＰ」を見た。レギュラー放送が始まったのが昨年１０月５日(水)で、比較的最近だったことが分かった。番組の内容は、視聴者のリクエストで新たに見たい人というコーナーで２人、これまで放送した出演者のその後をフォローするコーナーで２人、合わせて４人を３０分の中で紹介するというもので、コンパクトにまとまっていた。番組の最後に、秋頃にシーズン２の放送を期待させるような演出があったが、ぜひ実現させてほしい。

（ＮＨＫ側）

３月５日(日)ＢＳ１スペシャル「ダボス会議２０１７　どう生きる？人生１００年時代」を見た。パネリストとして出演していたロンドンビジネススクール教授のリンダ・グラットンさんの話がとても興味深かった。以前放送していた「白熱教室」のようなスタイルで、リンダさんの講義を放送してほしい。

○　連続テレビ小説「べっぴんさん」について、初めから前半までは地味で淡々とし過ぎて、ドラマとしてつまらないというのが、正直な感想だった。紀夫の役柄があまり好きになれず、途中で見るのをやめようと思った。しかし娘のさくらが登場して反抗期となった頃から、じわじわと物語にはまっていった。紀夫もいつの間にか自然な演技にひかれていった。明美の存在でドラマが引き締まり、明美が幸せになれて本当によかった。君枝とさくらの嫁姑関係はやや中途半端だったが、最終回まで見た。じわじわと心を温めてくれるドラマだった。長い期間ドラマを見続けると視聴者の心情がこれほど変わるのかと思った。

○　３月２３日(木)「阿修羅　１３００年の新事実」(総合 後10：00～11：15 全国)を興味津々で見た。タレントが番組を進行する場合、個性が出過ぎて特集テーマがかすんでしまうことがあるが、今回はよかった。科学調査の結果で一番驚いたのは、少年のような阿修羅の顔の下に、戦いの神である本来の怖い顔があったことだった。その説

明も分かりやすかった。秋の阿修羅像の公開にも合わせて、このテーマを追ってほしい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局